

平成25年第5回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成25年9月2日(月曜日)

議事日程第3号

平成25年9月2日(月曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 20名

出席議員 20名

1番	笠原幸江君	2番	斉木勇君
3番	渡辺重雄君	4番	吉川慶一君
5番	樋口英一君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	伊藤文博君	10番	中村実君
11番	大滝豊君	12番	高澤公君
13番	田原実君	14番	伊井澤一郎君
15番	吉岡静夫君	16番	新保峰孝君
17番	倉又稔君	18番	松尾徹郎君
19番	五十嵐健一郎君	20番	古畑浩一君

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

市長 米田 徹君 副市長 織田 義夫君

+

総務部長	金子裕彦君	市民部長	吉岡正史君
産業部長	加藤政栄君	総務課長	田原秀夫君
企画財政課長	斉藤隆一君	能生事務所長	久保田幸利君
青海事務所長	山岸寿代君	市民課長	竹之内豊君
環境生活課長	渡辺勇君	福祉事務所長	加藤美也子君
健康増進課長	岩崎良之君	交流観光課長	藤田年明君
商工農林水産課長	斉藤孝君	建設課長	串橋秀樹君
都市整備課長	金子晴彦君	会計管理者 会計課長兼務	横田靖彦君
ガス水道局長	小林忠君	消防長	小林強君
教育長	竹田正光君	教育次長 教育委員会こども課長兼務	伊奈晃君
教育委員会こども教育課長	池田修君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務 勤労青少年ホーム館長兼務	原郁夫君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務	佐々木繁雄君	監査委員事務局長	池田正吾君

事務局出席職員

+

+

局長	小林武夫君	次長	猪又功君
主任主査	水島誠仁君		

午前10時00分 開議

議長（樋口英一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1、会議録署名議員の指名

議長（樋口英一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、10番、中村実議員、20番、古畑浩一議員を指名いたします。

+

日程第2 . 一 般 質 問

議長（樋口英一君）

日程第2、一般質問を行います。

30日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。〔3番 渡辺重雄君登壇〕

3番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清生クラブの渡辺重雄でございます。

それでは事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、ふるさと市民制度創設の提案についてであります。

8月は、今年も多くの子魚川出身者をはじめ、子魚川にゆかりやかかわりのある人達が子魚川市を訪れ、活気をいただきました。

改めて、ふるさとを懐かしみ、愛着と興味を抱いて、大事に想ってくれている人達の多さに意を強くするとともに、子魚川を愛する多くの人々とのきずなを深め、子魚川市を応援していただくための仕組み「ふるさと市民制度」の必要を感じました。

すでに各種の制度や仕組みもありますが、個人の資格でも参加でき全国に発信し、受信できる制度「ふるさと市民制度」の創設を提案いたします。

登録していただいた方には、市の旬の情報や様々な特典を提供し、地域の食や観光で楽しんでいただき、時には、地域発展のための情報交換やアドバイスをいただけたらいかがでしょうか。

我々市民は、市の魅力を再確認し、親戚や友人知人にこの制度を紹介し、ファンを募り、もてなしの心を持って歓迎し、きずなを深めたらいかがでしょうか。

これからの子魚川市の発展は、定住者だけでなく、全国の多くのサポーターの力も必要と考えます。

すでに、過去の一般質問でも交流人口拡大対策として提案をさせていただいたところですが、この制度で潜在住民としての皆さんの力を継続的に、そして大きな相乗効果につなげ、新たな展開に発展させることができると確信をいたします。

このような観点から、具体的には以下の5点により提案をさせていただくとともに質問いたします。

(1) 市出身者など応援者とのつながりのためにであります。

「ふるさとは1日も忘れたことがない」「遠く離れていても子魚川市の情報が気になる」という大勢の方がいます。制度の導入によりキチッとしたパイプをつくり、きずなを強くして各種の交流につなげたいと思いがいがでしょうか。

(2) 各種交流人口の拡大のためにであります。

ジオパーク事業、新幹線開業などによる交流人口拡大のためには、不特定多数への呼びかけよりも、特定多数であり協力者である、ふるさと市民制度登録者への呼びかけは何倍もの効果が期待できることから、早期の導入で成果をあげたいと思いますがいかがでしょうか。

(3) ふるさと納税の協力拡大のためにであります。

これまで、とられるイメージであった税金が、選んで納めるという国民の自発的行為に基づく制度でありますので、まずは糸魚川市が応援対象であることが大前提となりますが、ふるさと納税の制度が理解されていない制度といわれる中で、ふるさと市民制度の登録者の方々とのきずなが協力拡大につながるものと思いますがいかがでしょうか。

(4) 特産品などの流通促進のためにであります。

特産品の都会への売り込みは、重要な産業振興策として、いろんな手法がありますが、ふるさと市民制度の登録者の方々も消費者としても大きな協力が期待できます。心情的な結びつきは地域への頻繁な訪問にもつながるし、特産品の消費にも直結すると考えておりますがいかがでしょうか。

(5) 市外人材ネットワークの構築のためにであります。

新幹線開業を控え、高速交通ネットワークを生かすには、市民や地域経済に刺激を与え、広く全国に開かれた糸魚川市にする必要があります。そのためには、糸魚川市出身者など各方面でご活躍の皆さんの有能なパワーを活用させていただく方法が効果的だと考えております。この制度とともに、市外人材ネットワークを構築すべきと考えますがいかがでしょうか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1点目から4点目につきましては、交流人口の拡大やふるさと納税の協力拡大、特産品の流通促進などに向けた渡辺議員の貴重なご提言と捉えまして、この制度につきましては、ふるさと市民制度は有効な制度と考えておりまして、今後、調査研究をしてみたいと考えております。

5点目につきましては、北陸新幹線開業に伴う誘客宣伝活動の展開について、東京糸魚川会や関西糸魚川会の皆さんと情報交換をいたしております。

また、各方面で活躍されておられます市出身者を中心とした奴奈川ネットワークが既に組織化されておることから、新たな団体的なネットワークの構築は考えておりません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

ただいま有効な制度であり、調査研究をしたいという大変踏み込んだ市長のご答弁をいただきましてありがとうございます。

ことしの4月の市長選で米田市長はマニフェストで、30年先も持続可能なまちづくりを打ち出されておりますね。私はこのマニフェストを見せていただきまして、このマニフェストに共感をすると同時に、これを具体化して目標に結びつけるには、この私が今提案しております、ふるさと市民制度、これを導入したら非常にいいのではないかという、強い思いに駆られたわけでございます。

6月の一般質問では、マニフェストに関して米田市長に、さまざまな観点から質問をさせていただきました。この一般質問を通じまして交流人口200万人の達成、協働組織・チーム系魚川の発足、そして市職員の意識改革にかける市長の情熱を感じ、改めてここに、ふるさと市民制度の創設を提案をする次第でございます。

このマニフェストでの約束の3件に大きく絡み、貢献するのが、このふるさと市民制度だというふうに思っておるわけなんですけども、少し細かいことについてご説明をさせていただきながら、ご質問をさせていただきたいというふうに思っております。

それでは、1番目の市出身者など応援者とのつながりのためにでありますけども、なぜつながりが必要なのかという点でございます。

よく地域に元気がないというふうに言われておるわけですが、私は従来型の企業誘致、それから公共事業をはじめとする地域活性化策、これも大変大事なんですけども、それだけではなかなか解決できない。逆に言うと、これもなかなか今は厳しいと。限界という言葉はちょっと使えないんですけども、非常に厳しい状況にあるというふうな考え方からであります。

なぜという点で、二、三質問をさせていただくわけですが、まず、一番大きいのは、人口の減少ですね。この自然減はともかくとして人口の流出ですけども、この人口の流出で考えますと、統計といいがわによりますと、合併後8年間で転出した人が9,615人、転入した人が7,832人、転入・転出差、いわゆる差し引きですが、1,783人の転出が多いわけです。年間ですと約220人余りが転出増と、多いというふうになっておるんですが、この社会動態というのはどのように分析をされているのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

おはようございます。

ご質問の社会動態の主たるものは、やはり高校卒業後の進学、就職、この点が一番大きな要因だというふうに考えております。続いてはやはり転勤、仕事をされている方の職場の移動に伴う転出が、多いものというふうに出ております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今ほど課長のお話のように流出の原因、進学、就職、転勤、結婚など、さまざまだと思うんです

けども、この人口の流出は、資産の流出にもつながっているということですね。一番わかりやすいのは、高校を卒業して大学へ進学する場合、人とともに、この進学先への仕送りも大きいわけなので、糸魚川でつくった資産が都市部へ流れていると。この辺の状況は、どのような受けとめ方をされとりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

今ほどの発言のとおり、特に進学に伴う分につきましては、仕送り等の部分では非常に大きなお金が都会へ流れていくという実態でありますけれども、詳細な金額までは把握しておりませんが、質問の中にありますふるさと納税というのは、やはりそういった観点から、何とか取り戻せないかという発想から出てきたものというふうに言われておりますけれども、当市の実態については、金額的な部分では把握はしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

具体的には、この流出口によりまして生産者が減り、消費者が減り、納税者が減る。それから、また新たな投資者としての人たちが減っていくというようなことで、あらゆる面で、糸魚川市の経済の縮小と地盤沈下が起きているというふうなことになるわけですが、私はこの流出口を食い止めるのは、非常に困難だというふうに思うわけで、したがって、この流出を前提にした活性化策、これを考えられないだろうかというふうなことなんですが、ここで流出した人口と資産を、糸魚川市の活用できる潜在人口として資源とか資産にしたいという考え方から、このふるさと市民制度の導入を提案したいわけでありまして、この辺の考え方について、行政としてどのように捉えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に今、我々はジオパーク活動をやっておりますが、それと同じ形でマイナスでありながら、それをいかにプラスに転じられるかということが大きい、今、ご指摘の点だろうと思うわけでございまして、その辺がやはり一番、今、流出されておる数字をどのように生かすかということが、やはり一番の大きな鍵になってくるわけですし、それが一番の原点になるんだろうと思っております。それをいかにそのマイナスの部分でプラスに転じられるかということが、やはり工夫をしなくちゃいけないし、また、一番考えなくてはいけないところだろうと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

先ほど、ふるさとは一日も忘れたことがない、遠く離れていても糸魚川市の情報が気になるというふうに少し話させていただきましたが、これはほとんどの糸魚川出身者の気持ちだと、私は思うわけであります。このふるさとを捨てたわけではないわけですね、かかわれる仕組みがあればかわりたいという方が、非常に大勢いるということをおも感じております。

既に幾つかの仕組みがありますけれども、私が今回、提案の制度は、個人という資格で登録をしていただくことで特別に制約のない、平等で継続できる制度、こういう制度になるのではないかとこのように思うんですが、これから調査研究をしていただくということでございますが、この点についてはどのように受けとめていただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今ほど渡辺議員から、市民ふるさと制度をどのように構築していくかということでございますけれども、全国の市町村の中では先進の事例で取り組んでおられるところもございます。そのようなことで先進の事例も私も研究をしながら、どういう糸魚川らしさの仕組みができるかという点を、今後、調査研究をしていきたいというふうに思っております。

糸魚川出身の方が大変多くいらっしゃるわけでございますので、その人たちの皆さんがふるさとを思い、どのような協力ができるかという一人ずつのすることは違うかもしれませんが、それらを結集して糸魚川市の活性化のために皆さんからお力をいただくという、大変有用な制度の1つだというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

それから、国立社会保障人口問題研究所のデータなんですけれども、最近、Uターン移動者の比率が上昇しているという調査データがありますね。年齢別に見ますと、男女とも40歳代前半にかけて上昇し、その後、男性では50歳代後半まで横ばいですが女性は低下している。男性は60歳代後半以降、Uターン率が再び上昇している。これは定年後にふるさとに戻りたいという、ふるさと回帰への思いだというふうに分析をしてみると、こんなことから、このふるさと市民制度でつながりを持つことで、定住へとつながるというふうにも考えられるんですが、この辺については、どのように捉えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

ご提案の趣旨は、そのとおりだというふうにも思っています。

確かにUターンという部分で、ふるさと回帰というふうに言われておりますけれども、今、これから具体的な制度設計を研究していくこととなりますけれども、あえて糸魚川市の出身でなくても、広く糸魚川を愛するというような人も対象にするかどうかにもよりますが、そうしたときにはUターンということではなくて、さらに広くIターンということも考えられるというふうにも考えられますので、U・J・Iというような3つの切り口の中から、この制度を有効に活用できるようになれば、効果が上がるのかなというふうにも考えておりますけれども、いずれにしても、今後の制度設計の検討の中で、十分その辺を踏まえて調査していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

確かに今、課長が言われるように、私の周りにはUターンよりもIターンがかなり見受けられるというのが現状で、また、そのIターンの方たちが、一生懸命取り組んでいらっしゃるという姿も見受けられますね。

では、2番目の各種交流人口の拡大のためにでありますけれども、平成24年度の糸魚川ジオパーク観光動態調査。これによりますと、糸魚川への来訪回数が4回以上という方が全体で約6割、そのほとんどの方が、高い満足度を感じている。これは単なるリピーターではなく、糸魚川ファンと位置づけしていいと思われる方だというふうに述べとるわけですが、この糸魚川ファンと位置づけしていいと、ここで終わっているわけなんですけど、これを受けて、さらにどのような生かし方を考えているのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

おはようございます。

お答えいたします。

確かに観光動態調査では、リピーター率も非常に高いですし、何回も来ていただいている方が多くいらっしゃいます。そういう中で、さらにまた続けて来ていただくようにするには糸魚川市の魅力をさらに高めるといふこと、それとやはり情報発信、そういったことが必要になると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

それから、この観光動態調査、もう1つですね、糸魚川の情報を知る手段としてということで、インターネットと口コミが拮抗していると。特に、この口コミでは、糸魚川在住の家族、友人、知人からの紹介といった身近な人が、情報源という形が多かったというふうに述べておりますけれども、

ここでも調査によって現状を整理しておるわけなんですけど、これを生かすと、確かなものにするというには、どうするかという点が非常に大事なんですけども、この点についてもいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

口コミ等での広がり、そういったものを広げるというためには、やはり来ていただいた方に感動してもらい、満足してもらい、そういったことが、やはり一番必要なんでないかなと思っております。やはりそういったことがほかの人、家族や知人、そういった方に、あそこに行くと非常にいいよという形に、つながっていくのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

いずれも、この観光動態調査で現状は分析をされていると。では、どうするかというところが、少し弱いような私は気がするわけです。この調査の結果を受けて、皆さんにどんなアプローチをさらにしたらよいかということなんですけど、私はまず市民と出身者のつながり、これを見てもこの強い関係、これを利用して、例えばこの私が提案しております、ふるさと市民制度というふうな仕組みをつくることによって、対象が明確になってくるわけですね。そしてスムーズな流れができて、交流人口の中身が読めるようになる、そういう踏み込みがやっぱり必要なんじゃないかと。

もちろん、従来の不特定多数をターゲットにした宣伝、PRも同時に行いながらでございますが、投資と効果という点では、何倍も効果が上がるんじゃないかというふうに思うんですが、この点について、どのように受けとめていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに、ふるさと市民制度という形で登録された方というのは、糸魚川市に特に関心等や思いを持っておられる方が多いというふうに考えられますので、やはりそういう制度の中で市が提供した情報に対する反応というのは、非常に一般の方に比べて高いんじゃないかなというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

では、次に3番目のふるさと納税の協力拡大のためにであります。

このふるさと納税に関しましては、国が21年度の住民税納付分よりスタートした制度なんです

が、実際にこの4年ほどの間に、どのような受けとめ方、感じ方をしていच्छるか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

当市では20年度からこれまで6カ年の中で、市に対するふるさとへの思いということで、金額のことは大きい金額もあれば小さい金額もあればと、いろいろなんですけれども、そのときに、こういったことで糸魚川を応援したいかという質問項目もその中にあります。

地域づくりのぜひ一助にしてほしいとか、あるいは安全・安心、さらには人づくりというようなことで、使う用途も期待を込めて送っていただいている。そういった糸魚川市をまさに応援していただくような言葉、メッセージをつけていただいている方もおられますので、この6年間、いただいている金額は2,400万円ほどになりますけれども、大変貴重な財源だと思っておりますし、使い道についても、また寄附いただいた方にも見てとれるような形で、お返しをするというようなことで、これまで取り組みをしてきておりますので、いずれにしても、今後も引き続き拡大に向けた、また取り組みをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

ホームページでは、平成24年は41件で484万3,000円の寄附をいただいている。今、課長のお話では、累計で2,400万円ほどになっているということで、非常に他市に比べては、いわゆる遜色ないといいますが、支持されてるなというふうに受けとめているんですが、全国規模でいいますと、この寄附をされた方の住んでいるところは、東京、神奈川、大阪の順だというふうに出ておるんですが、東京に関しては24年実績で13万8,584人というふうなことから、東京の人口が1,300万人といたしますと、100人に1人がふるさと納税をしている、いわゆるふるさと寄附金をしているということなんです。糸魚川市では、この寄附をいただいている方の方面別では、どんなところが多いんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

当市においては関東・関西というふうなくくりでありますけど、関東・関西・県内というところで、おおむね全体の半分以上を占めている状況であります。関東の中でも、特に出身者会、東京糸魚川会、関西のほうでは、やはり関西糸魚川会のメンバーが、その中の主流を占めているというような状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

糸魚川市の24年の実績から見ますと、寄附の平均は12万円ほどになるんでしょうか。この寄附をしてくださった方へのお礼といたしますか、対応はどのようにされているのかということですね。

全国を見ますと、純粋に応援をしたいという寄附もございしますが、お礼としての特産品を目当てに寄附をされている方もかなり多いという現状ですね。その辺も含めて寄附をしてくださった方の、その後の反応というのはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

寄附をいただいた方のその後の反応ということでありまして、一度寄附をいただいた方が、やはりその後、引き続き寄附をいただくという傾向があるというふうに受けとめております。

お礼品ということでありまして、昨年度から少しお礼品の見直しをいたしまして、金額に応じてなんですけれども、お米であったり、あるいはまた糸魚川のギフトカタログ、当市の特産品の品ぞろえが豊富なものですからそういったもの、あるいはまた市内の施設の優待券等もつけております。加えまして、市の広報も情報提供という形で、寄附いただいた年度の翌年度ぐらいまで、最大2カ年ということになりますけれども、そういった情報提供をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

非常にいい感じで、対応されてるんじゃないかというふうに思います。

2月の東京糸魚川会の役員の方の皆さんとの懇談の際に、この制度のPRやお願いが弱いというか、浸透してないというようなご意見、指摘をいただいたんですけども、この辺はどのような方法で対応しているのか、そのような指摘というのは、その方たちが、そういう受けとめ方をしたんだろうと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

東京糸魚川会、あるいはまた関西糸魚川会等の総会の場においてもお願いをしているところでありますけれども、そういったご意見があったということは、また今後のお願いする内容の見直しをしていかなければならないのかなというふうにも思っておりますので、今後のまた検討課題とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

私はこのふるさと納税制度、いい制度だというふうに思っておったんですが、正しく理解されていないところがあるというふうなことです。というのは、今まで地方が困って国や企業に助けを求めて、今度は都会に住む人たちに助けを求めているように捉えているというふうな一面もあるというふうな指摘もあるんですが、ですから特に正しい理解をしていただく。

このためには情報の提供だというふうに思うんですけども、特に、このふるさと納税についての情報提供の前に地域の情報を、地域が頑張っているんだという正しい情報を、きちっと届けることが必要だというふうに私は思うわけなんで、その点、このふるさと市民制度、日ごろのつき合いという中で相乗効果が発揮できますし、また、この制度の活用といいますか、支持が得られるんじゃないかと思ってるわけでありまして、先ほどのお話の中にも東京系魚川会とか関西系魚川会の方、何らかのコンタクトがある方がやっぱり多いんだというふうなお話をお聞きしますと、なお一層その感がするわけなんですが、この点、再度いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

ふるさと市民制度、この名称も全国ではいろいろな形で表現されておりますけれども、そういった中では、やはり今のふるさと納税、このことも当然、制度の中に組み入れてお願いをしているということでありまして、やはりふるさと市民制度そのものの趣旨も、まさにこのふるさと納税と共通する部分がありますので、今後検討する中で、当然、ふるさと市民制度の中でふるさと納税、糸魚川応援寄附金でありますけれども、そのことも制度の中につけ加えて当然入れて、今後、検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

それでは、次に4番目の特産品などの流通促進のためにでありますけれども、この特産品は、意外と地域の道の駅などで売られることがあっても、それ以上のものになかなかないとか、あるいは高品質の特産品ができて、価格設定が甘かったり、数量が確保できないというふうなことなんかで、流通に乗りにくいのが現状かというふうに思うんですが、かつて農協さんがいろいろな特産品をセットにして、定期購入者を募って相当人気があった時代もあったんですが、逆に、品ぞろえができなくてやめたというような話も聞いておりまして、この他地域を相手に稼ぐシステム、この構築というのは、やっぱり必要なんじゃないかなというふうに思うんですが、その点では、この商品全てが特産品といえるかどうかは別としまして、このギフトカタログいといがわ百選、これは好評なようなんですけども、現在どんな様子ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ギフトカタログは、今現在、第2弾を発行しております、5,000部作成をいたしました。昨年の10月に第2弾を発行いたしました、今3,800冊が売れております、残り1,200冊も年内に完売するであろうというふうに見込んでおります。ちなみに第1弾では、1,800冊が6カ月で完売したという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

私もこのギフトカタログ百選、これを利用させていただきましたけども、商品はもちろんなんですが、カタログもなかなか立派なものでして、多くの利用を期待をいたしておるところです。ほかに郵便局のゆうパック事業で、市内の業者でも特産品を大量に流通をさせている方もいらっしゃいます。

今後、自前で流通手段を構築するか、またはプロの流通手段を利用するかは別としまして、いろんな流通手段の活用によって都会への売り込みが拡大できそうなんです、その辺、今後どのような流通を考えてられるか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

8月22日でありましたけども、市長の初日の行政報告でもお話を申し上げましたけども、糸魚川の食談会を8月22日に、日本橋のブリッジにいがたでやらせていただきました。25社、70名の方々がおいでになりました。その後も食談会の後、サンプル品をお送りするなどして、今、流通に向けて取り組んでいるところであります。

また、なりわいネットワークでは、今年度から地元産品の販路拡大支援事業というものに取り組んでおまして、その中でも流通の販路拡大に向けて、今取り組みをいたしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

市のホームページでは、特産品として農産物が8品種、海産物は3品種、銘菓、お土産では15社、お酒では5酒造会社、ヒスイは7社が紹介されておりますけども、この紹介の基準というのは、どのようになっているのかお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

特に、なりわいネットワークに加入された方々の商品について、事業者の方々からご了解を得られた部分を載せているというふうな状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

1つの基準を持っておられると思うんですが、この特産品を全国へ向けて情報発信、PR、販売支援をするというには、体制の整備というのは、きちっとしておかなければならないと思うんですね。

農協、商工関係者、個人にお任せするというような比較的、今まで傾向もあったかと思うんですが、これを例えば糸魚川市特産品認定制度、こういうものを導入するというようなこととか、しっかりした体制でこの安心・安全、そして信頼度の高い特産品を提供できるように、やっぱりここは行政が中心となって仕組みをつくるほうがいいというふうに思うんですが、この特産品の認定制度の導入というふうなことについてはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

本年度に入りまして農協、それから森林組合、漁協、それから行政と、1次産業の皆さんと意見交換会を持たせていただく場をとりました。

その中で特に農業関係では、糸魚川市農業振興協議会という協議会がございますので、そちらのほうでは交流人口に向けた地元産の素材を使った料理を、どのように出すかというところの検討もさせてもらっておるところでございます。それから認定制度につきましても、今、調査検討段階でございますので、もう少しお時間いただきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

既に調査研究を始めているということで、非常にありがたいお話だと思います。

ほかにB級グルメのブラック焼きそば、それから越後・糸魚川の南蛮エビ、こういったものがあるわけですが、それぞれの団体が自主的に仕掛けたり展開をします。それそのものは非常に大事なんですけども、幅広く全国に展開するには、やはりなかなかいろいろな制約というか、無理があるんじゃないかなというふうに思うわけで、この関係者だけでなく、大きく言えば市民まで巻き込んだ仕組みをつくと。そして、まず市民に認知をしていただくことが大切だというふうに思うんですが、この辺のブラック焼きそば、それから南蛮エビ、この辺の展開についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ブラック焼きそばにつきましては、やはり1つとしてB級グランプリに出場すると、それが1つの大きな目標として現在進めております。

それともう1つは、やはり糸魚川市に来てブラック焼きそばを食べてもらう展開ということで、近隣のいろいろなイベント、そういったところでのキャンペーン活動などに取り組んでいるのが現状であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

特に、この特産品のブランド化なんですけど、こちらも基本的には地元の人が、地元の特産品を食したり愛用するということが非常に重要であるわけがございます。まず、地元の人にその魅力を理解、認識してもらうという必要があるわけなんで、これがうまくいけば、ふるさと市民制度のような組織に乗せて、制度の利活用という面でも非常に効果が上がりますし、それぞれの発信ができるというふうに思うわけなんで、その辺、よろしくお願いをしたいと思います。

それから次に、5番目の市外人材ネットワークの構築のためにでございますが、先ほど市長答弁で奴奈川ネットワークに関するお話もございました。

平成9年に糸魚川商工会議所で奴奈川ネットワーク事業が、52名の登録を得て盛大に発会式を行ったという記録もございます。18年ごろまで、年に1回程度の事業も記録されておりますけども、この糸魚川市とのかかわりという点では、どんなことがございますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

奴奈川ネットワークの委員として、市のほうからも1名参画をしております。また、8月現在でございますけども、奴奈川市民で101名の方々に市の広報紙をお送りしたり、また、あるいは「商工糸魚川」を送ったりするなど情報の発信に努めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

商工会議所のお話では、現在、全国101人の方から登録をいただいていると。市の広報紙をはじめ会議所の会報をはじめ、各種の情報を送ってつながりを持ってるといふようなことでしたけども、ここのところ動きのある活動をやってないというようなお話なんです。

ただ、人材ネットワークの必要性とか重要性、これはもう感じてるといふようなことなんですけど、糸魚川市としては独自に外部の人材の活用、こういうことについては市長答弁にもございましたが、

具体的な事例等がありましたら、ご紹介いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今までの組織、今言った市民の奴奈川ネットワーク、また、関西糸魚川会、そして東京糸魚川会、今ある組織はその3つ、今関係しとるのがあるわけでありまして、どちらかというとな案型でございまして、いろいろ情報をいただく方向に今あるわけでありまして、そういう事柄になつとるわけでもございまして、個々のいろんな、まだ市民の中で、ご提言いただく方は数多くあろうかと思うわけでありまして、やはりこちらから情報を出して、そして向こうで広げていただけるといふ、その形がなかなか見えてないのが実情でございまして、最近の糸魚川の考え方といたしましては、やはり糸魚川の情報を広めていただきたいといふところが、これから必要になってくるんだらうと思つとるわけでもございまして、その辺を進めていくには組織的だと、今、数に限りがあるわけでもございまして、先ほど前段で渡辺議員がご指摘いただいたような組織、それこそ市民のレベルの中でやっていくといふ形のほうが、逆に情報発信が、非常に広がりを持っているんでないかなと私は捉えるわけでもございまして、新たな組織をつくつても、やはりどちらかといふと糸魚川市に対して、ふるさとに対して、提案型になりがちになってしまう部分があるので、提案もありがたいものであるわけでもございまして、どちらかといふと、我々は情報発信をいただきたいところに力を入れていきたいと考えてる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

この人材ネットワーク、今、市長がおっしゃるとおりじゃないかというふうに私も思うわけです。

この糸魚川出身者にこだわらず、かわりとかゆかりのある方、こういう方たちに今お願いをしたいわけですが、このかわり、ゆかりというふうな点では、この糸魚川は新潟県の西の端であつて、転勤族の間では、あまり赴任したくないところというふうな感じでも聞いておるんですが、ところが2、3年お勤めして異動するとき、ほとんどの人は離れたくないというふうなことを言つてさうなんです。

この点で、加藤産業部長さんは赴任したばかりですけども、どんなイメージを持っていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

産業部長（加藤政栄君）

おはようございます。

お答えします。

私も赴任して5カ月になりますけれども、まず、食につきまして言いますと、アンコウ、紅ズワイガニ、南蛮エビというのは普通に有名でしたけれども、ほかにセイカイですとか、タチウオですとか、モズクだとか、食べるものは全ておいしいと。もちろんお米も、農産物も大変おいしいと思っております。

それからまたそのほかにも、この4月に来てから祭りだとか花火だとか、いろいろ見させていただきました。それから谷村美術館という、文化勲章授章者のお二人の方がつくられた美術館、あるいは中根金作さんの庭、こういった本当に文化的に高いものがたくさんあるところだなと思っておりまして、そういう意味では、本当に魅力的な素材がたくさんあるまちだなというのを、もう既にこの5カ月で十分実感しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

すみません、突然お聞きしまして。

また、この糸魚川のよさでしょうか、転勤してもつながりが切れないというのが、この地域の特徴みたいに使われてるんですね。

そういった点で、この人たちが数年たつと、それぞれの機関でトップクラスの役職についていらっしゃるって、すごいネットワークを持っている。私の知ってる人でも何人かいるわけで、このような人たちにも糸魚川市に協力をしていただけるといふふうに思うんですが、この辺の活用の仕方というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういった転勤いただいて、そして各地域へまた転出されてご活躍いただいている方がたくさんおられるわけございまして、そういった皆様方に糸魚川のPRや糸魚川の情報発信にというところをやっぱりやっていただくことは、非常にいいことであるわけございまして、その辺が十分生かされていないと私も捉えているわけございまして、今、例えばジオパークであると大使を拝命させていただいて、活躍いただいているわけでありまして、そういういろんなところで我々は利用させていただきたいと思っております。その辺をまた検討しなくてはいいかならうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。

全体を通した中でありますけれども、市長よりふるさと市民制度を調査研究したいというご答弁を

いただきましたので、若干、普及推進といいますが、登録者の確保という点について考えを述べてみたいと思います。

先ほど市長のマニフェストの約束の3件に大きく絡み、貢献するんだというふうに申しあげましたので、私の考えている関連を説明をさせていただきますが、まず、市長の言う交流人口拡大でございますが、登録者が確保できれば必ず交流人口の拡大につながるというふうに私は考えております。

次に、協働組織・チーム系魚川ですけれども、登録者の確保には市民一人一人にご紹介をお願いするとか、さらにふるさと市民の方々との交流をお願いする仕組みをつくる必要があると。したがって、各種団体はじめ各地域、個人にまで協力をいただきたいわけでありまして、このチーム系魚川にふさわしい事業になるというふうに思います。

それから市長の言う、市職員の意識改革を徹底的に実施するというところでありますけれども、ここでは登録者の確保は当然のことでございますが、できれば現在の市の定住人口であります4万7,000人くらいは、やはり確保したいというふうに思います。できれば、合わせれば10万人規模の市になると。あらゆる面で職員の意識改革が必要になりますし、持続して効果を見出すためには、さまざまな仕掛けも必要になります。当然、市長の言う、課題を解決する先頭集団にならざるを得ない状況になってくるというふうに考えております。

こんなことを考えてるわけでございますが、改めて市長のマニフェストとの関連について、この制度をどのように感ずるか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく私のお約束、マニフェストにつきまして、その達成の大きな事柄にもなると思っております。やはり基本的なところだろうと思っております。

我々は交流人口拡大というのは進めている。そして今あるジオパーク事業におきましても、非常に地道に見えるかもしれませんが、やはりおいでをいただいた方には、しっかりとこのよさを受けとめていただく。そしてまた再度来ていただきながら広めていくというやり方に、これについて進めさせていただいてるわけでございますが、そのように今、進めてるわけございまして、しかしながら、さりとしてある程度の数が来なければいけないわけでございますので、その拡大に、今、ご指摘をいただいた提言というのは、非常に私は有効に考えられるわけでございますので、その辺をこれからじゃあ具体的に、それをどのように移していくかというところがやっぱり大事になるんだろうと思うわけでございますので、その辺を研究をさせていただきながら取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。

この制度は、特別お金のかかるような制度ではないわけですが、まず市長をはじめ職員、市民のやる気が必要だというふうに思います。

このふるさと市民への信頼と信用、これが必要であるわけで、また、ホスピタリティー、いわゆるもてなしですか、この受け入れ体制のためには職員教育、それから市民教育も必要になるというふうに思うんですね。

こうして考えますと、1つ1つが糸魚川市のあしたにつながる人づくり、こういう事業にもなるというふうに私は思うわけで、この私の長年の主張が受け入れられて、調査研究をされるということでご回答をいただきました。敬意を表しまして、きょうの私の一般質問を終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

11時5分まで休憩いたします。

午前10時55分 休憩

午前11時05分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。〔6番 保坂 悟君登壇〕

6番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、海洋高校と連携した地域活性化策について。

全国では高校生が運営するレストラン、カフェ、ショップなどがあります。私は県下唯一の海洋高校と連携し、高校生ビジネスを展開し地域活性化を図るべきと、8月7日の建設産業常任委員会で提案いたしました。

そこで、以下の点について伺います。

(1) 海洋高校による交流人口拡大策について。

国内外から生徒を募集するための特色づくりはどうか。具体的には、資格取得のための施設整備や海洋関係機関とのネットワーク強化など。

(2) 高校生ビジネスの活動（部活動）支援について。

高校生によるレストラン、カフェ、ショップの開設はどうか。

(3) 海洋高校ブランド商品の開発と生産販売について。

地元企業とすでに商品化されていますが、さらに促進するための支援体制はどうか。

2、特色ある（儲ける）まちづくりについて。

(1) 儲ける自治体の取り組みについて。

「エコパークいずもざき」のような施設設置はどうか。

西洋の庭園のような美しい墓地公園の設置はどうか。また、ペットの墓園の併設はどうか。

佐賀県武雄市の図書館経営や和歌山県北山村の村営コンビニエンスストアのような公共施設経営はどうか。

エネルギーの地産地消をめざし、耕作放棄地を中心にバイオエネルギーの生産を官民で調査してはどうか。

(2) 儲ける高齢者グループ作りについて。

高齢者が気軽に取り組める生産・加工・販売の体制支援はどうか。

(3) 儲ける観光戦略について。

新幹線開通後、糸魚川市として観光客にどこで何にお金を使っていたのか。また、その体制やシステムはどうか。

3 市民の安心安全対策について。

(1) 救急医療情報キットの導入について。

救急医療情報キットは、ボトルタイプの「命のバトン」、携帯用カードタイプの「命のパスポート」として広く普及しております。高齢者、障がい者等を中心に無償配布すべきと思いますがどうか。

(2) 露店等の安全対策について。

今年8月15日、京都府福知山市の花火大会で露店の爆発事故が発生いたしました。当市の安全対策はどうか。

(3) 軽度・中等度等難聴児の補聴器購入助成制度について。

新潟県は平成25年度4月から、18歳未満の軽度・中等度難聴児が補聴器を購入する際に、県と市町村が助成するという新たな支援制度を始めました。当市においてはどのような対応になりますか。

(4) 地デジの難視聴対策について。

身近な情報源であるテレビが映らないと人は不安になります。今年の春から「地デジ放送が映らない。」という市民の声がありますが、現状とその対策はどうか。

4 選挙について。

昨年10月の県知事選挙をはじめとして、衆議院選挙、糸魚川市長選挙及び市議会議員選挙、参議院選挙と連続して行われてきました。投票率を向上させるために各選挙の分析を行い、工夫をされてきたことと推察します。そこで、以下の点について伺います。

(1) 投票率を向上させるための工夫について。

投票所のバリアフリー対策はどうか。

投票所送迎バスの成果はどうか。

若者に対する啓発はどうか。

(2) 投票所入場券への宣誓書の印刷について。

市民から導入を求める声があります。誰のための選挙であるかを考えれば導入すべきと思いますがどうか。

(3) 選挙や政治の教育について。

税金や社会保障制度とともに選挙や政治について、成人前の子どもたちに、政治参加の意義について教育すべきと思いますがどうか。

以上で、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、地域の水産資源を有効利用した特産品の開発や、大変特色のある教育活動を行っており、県内外からの生徒募集に積極的に取り組んでおります。市といたしましては、どのような協力が可能か調査してまいります。

2点目につきましては、ご提案のような先進地では、高校の部活動の中でビジネス活動の場を提供いたしており、今後、研究してまいります。

3点につきましては、私も支援体制が必要と考え、産官学等の連携により受け皿を、今後、どのような組織体制づくりができるか調査研究を進めてまいります。

2番目の1点目の1つ目と2つ目につきましては、いずれも環境への負荷や住民の理解と合意が重要であり、難しいと考えております。

3つ目につきましては、ご提案のような公共施設を運営する考えはございません。

4つ目につきましては、先進地事例等を調査研究してまいります。

2点目につきましては、高齢者の方々が持つ昔ながらの加工技術などをJAや森林組合などの関係機関と連携して、支援をしてまいります。

3点目につきましては、糸魚川に来ていただき食事や宿泊して、お土産を購入していただくことと考えております。現在、組織強化を進めている観光協会や広域観光連携を通じて、誘客展開を図っていく考えであります。

3番目の1点目につきましては、緊急時には要援護者台帳システムにより対応いたしており、救急医療情報キットは、適切な管理や情報の更新に課題があることから、導入については考えておりません。

2点目につきましては、現在、各イベントの実行委員会の責任において出店許可をいたしておりますが、警察署や消防本部の指導のもと、事前に出店者説明会などを実施し、安全対策を講じております。

3点目につきましては、身体障害者手帳の交付対象とならない難聴児の補聴器購入費を助成いたしているもので、現在、準備作業を進めており、広報等で周知をいたしております。

4点目につきましては、今後、視聴できないとの相談があった場合には現地調査を行い、デジタ

ル放送推進協会と対策を協議してまいります。

4番目につきましては、選挙管理委員長にかわってお答え申し上げます。

1点目の1つ目につきましては、本年4月の市議会議員選挙において、2階に投票所を設置した施設は4カ所ありましたが、前回、21年の6カ所のうち2カ所を1階に変更するなど、バリアフリー化に努めております。

2つ目につきましては、投票所送迎バスは運行できませんが、巡回バスは5便あり、投票される方からご利用いただいております。

3つ目につきましては、毎年、成人式において啓発のパンフレットを配布しているほか、投票立会人を若い方をお願いをするよう努め、投票しやすい雰囲気づくりに努めております。

2点目につきましては、期日前投票制度が浸透し、投票者がふえてきていることから、導入について検討してまいります。

3点目につきましては、小学校6年生の社会科や中学校の社会科・公民的分野で、政治の働き、仕組みについて学習を行っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

それでは、初めのほうからさせていただきます。

まず、交流人口拡大策について。

8月7日に商工会議所主催の拡大水曜会で、海洋高校の松本将史先生の講演がございました。地域と海洋高校がタイアップすることで、さまざまな成果が出ていることを紹介していただきました。松本先生は私の妄想と何度も前置きしながら、海洋高校と地域の連携で新しいことができることを強調されておりました。松本先生がおられる今こそチャンスと思います。海洋高校と連携した事業の予算組をすべきと思うんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、海洋高校で模擬株式会社、オーシャンプロジェクトというのを取り組んでいただいております。これについては海洋高校のホームページにも載っているところでもありますけども、そのオンリーワン・ステップアップ事業が26年度までということでございます。

市長答弁にもありましたが、今の活動をどのように産官学でとりあえずは連携をし、その次のステップとしては、どのような組織ができるか調査研究してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

今ほど市長答弁でも課長答弁でも、連携をしていくという方向性については、確認させていただいたと思います。それを踏まえて、若干いろいろ質問させていただきます。

仮称であります、「世界ジオパークのまち糸魚川で海洋学を学ぼう」というキャッチコピーで、海洋高校の相撲部のように全国から生徒募集を強化すべきと思います。全国に向けて中学生を対象にオープンキャンパスを実施してはどうかと。そのために海洋に関する一流の学者、専門家、実業家等を招き、さまざまな講演会や高校生による各種イベントを企画して、地域を挙げてこの全国からの中学生を歓迎するという、そういった企画とかを、ぜひ考えていただきたいんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

今ほどのご指摘のように、優秀な人材をどう集めるかということは非常に大切であります。

そこで学校では特色ある学校ということで、いろんな取り組みを行っております。そして、それをいろんな地域、子どもたちに知らせることが最も大事だと思います。

そういった意味で、海洋高校ではプロの方を使ったホームページの充実であったり、あるいは募集要項のポスターを、県内の中学校は当然ですが、隣接県、富山県、長野県、群馬県、埼玉県にも全部配布して募集をしているところであります。また、いろんな体験学習を海洋高校で実施したり、あるいは乗船の実習といいますか体験ですね。これは糸魚川市だけではなくて、新潟市でも実施したりして取り組んでおります。そういった意味で、市としても優秀な子どもをどう集めるかというのは非常に大事ですので、いろんな意味で、そういう方向で検討していきたいと、こんなふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

オープンキャンパスも含めて、検討して下さるというふうに解釈いたしました。

海洋系の高校として、ハード・ソフトにわたり全国トップレベルを目指す授業をしてはという提案であります。将来的に糸魚川市に海洋学の専門学校もしくは短大、場合によっては海洋大学等の研修施設を誘致するぐらいに、今言った一流の人材を集めて、一流の海洋高校にしていく。そのために戦略として、行政主導になるかと思うんですが、海洋高校を日本一にする会みたいなものを結成して、毎年のように海洋高校の同窓の集い等やって、海洋に係る業者、官公庁との連携を

太くしていった、そういった施設も誘致できるような、また、一流の海洋高校にしていくような、そういう動きをぜひ研究、むしろ具体的にやっていただきたいんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

ご提案の点については、本当にそうだなというふうに感じます。

ただ、これは県立高校ということもありまして、市としてどこまでできるかということもあるんですが、でも今ご指摘のように、よりすばらしい学校に全国の中でもしていくためにも、そういった取り組みを県教委や学校と打ち合わせをしながら、市としても検討してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

あと海洋高校の生徒が就職や進学を有利にするため、この資格取得支援をすべきと私は思っております。そのための仕組みづくりや、また、企業や大学等のネットワークづくりも積極的に支援すべきというふうに考えております。

具体的には、進学先の入試担当者、または就職先の企業の人事部の方に、今こういう人材が求められているんだとか、こういう心構えが必要なんだというふうに、もう具体的に生徒をバックアップしていくような、そういったところに力を入れていただきたいんですが、いわゆる学生本位の支援というんですかね、そういったものをやっていただきたいんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

海洋高校に限らず、市内3校の高校とタイアップをしながら、就職活動にも支援させていただいておるところでございます。

特に、海洋高校のこのようなすばらしい活動と、卒業後の就職に結びつけるという部分では、もう一步踏み込んだ支援というものを考えていかなきゃならんというふうに考えておりますけども、今のところは、やはり産官学の連携を私どもがしっかりキーポイントをとって、今まで以上にやはり海洋高校と情報を取り合いながら、対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

期待しておりますので、よろしく願いいたします。

次に2番、高校生ビジネスについてであります。高校生ビジネスという表現を使いましたが、あくまでもキャリア教育上のものという認識でお願いいたしたいと思います。

海洋高校でレストラン、カフェ、ショップの設置には、いわゆる営業時間とか、施設管理体制という課題があるんですけども、生徒たち、または学校等の条件を整えば、ぜひこういったものを取り組んでいただいて、また、市からも支援していただきたいと思うんですが、その辺の考え、または全国の情勢を見て、その辺の考えをお聞かせいただきたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

非常に海洋高校の皆さんの活躍は、素晴らしいものがあります。今、うまいもん甲子園というものに海洋高校のペペロンチーノ、サケからつくったしょうゆを利用したスパゲティのペペロンチーノで、全国35の地方予選を選出したその1つに、今、海洋高校の生徒さんの食が入っております。

また、高校生レストランで非常に話題となりました多気町の状況を情報等で聞いとるところでありますけども、やはり学校では教えられないことを部活の中で取り組んできているんだというふうな話題やら、また、行政の学校への向き方等いろいろ勉強するところがございます。

今後、先進事例を参考にしながら、調査研究に反映していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

ぜひ前向きに取り組んでいただきたいと思います。

今、高校生、大学生もそうなんですが、社会に出ていっていわゆる協調性だとかコミュニケーション能力とか、学力は非常に高いものがあるとしても、そういった人との接し方とか、あと経営センスといいますが、そういったものが非常に大切だということも言われております。ぜひ前向きな取り組みを、行政としても行っていただきたいということをお願いしておきます。

次、3番、海洋高校ブランド商品についてであります。

海洋高校の生産・加工・販売商品の行政支援をすれば、どのような形ができるのか。私の中では、3月末に工場建設を断念されたクリエイティブフーズの土地がありますし、あそこで山の幸でも海の幸でも加工するようないい加工場を設置して、海洋高校と連携しているような実験施設といえちょっと語弊があるんですけども、そういった取り組みをぜひやっていただきたいと思うんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

海洋高校では既に5品目でしょうか、真昆布を利用したアイスクリームですとか、うどんに練り

込んだりとかいうことで、非常に商品開発を一生懸命していただいておりますし、特に、真昆布をうどんに練り込んだ際には、当市のなりわいネットワークの組織の皆さんも、非常に応援をさせていただいたというところがございます。

答弁にもありましたけども、とりあえずは産官学連携をしっかりとさせていただく中で、会社等の組織の立ち上げについて、調査研究をさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

産官学連携で立ち上げることを明言していただいて、本当に力強いなと思います。

海洋高校と同じく、また、海洋高校の栽培棟というか施設の近くに上越漁協もございまして、そこではカニがとれるわけですし、いわゆる食べた後のカニ殻を使ってこういう肥料に使うと、非常にいい肥料になるというふうにも伺っておりますし、また、網でとった魚のいわゆる雑魚というんですかね、そういったものを使って、何かカルシウム豊富な手焼き煎餅みたいなものとか、そういったものもぜひ研究して、オリジナル商品等も手がけていただきたいなというふうに要望をしておきますが、そういう漁協とかも、その産官学の中に入って、連携して商品化というふうになっているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、議員の中で雑魚といいますか、そういうものの有効活用というような提案もございましたけども、産官学の連携の中には、当然、漁協も入っております。既に海洋高校では、オコゼの養殖栽培もしていただいておりますし、そのようなものもマリンドリームで開催するイベント等でも、利用させていただくととところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

ちなみになんですが、そのオコゼに関しては、もう商品化をされてるということによろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

オコゼについては、まだ商品化にまでは至っておりませんが、とれる量も少ないものですから、まだそこまでは至っていないという状況でございます。ただ、非常においしいということで評判でありますので、もう少しPRをしていかなきゃならんというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

既に、そういう商品化が進んでいるということであれば、全国に四十数校あるらしいんですが、海洋高校のこういったブランド商品を国内外に発信する意味も込めて、この実業高校のブランド商品を紹介するイベントをぜひ糸魚川でやっていただいて、また、そこでジオパークのアピールなりもするというのも兼ねて、そういった企画を糸魚川が音頭を取ってやるのもどうかなというふうに思うんですが、そういった発想、考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ご提案の内容については、今後、参考とさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

ぜひ売り込むためにも海洋高校が頑張っているところを際立たせるためにも、全国のそういった似たような高校の取り組みを、まず、糸魚川で情報発信していくイベントをしていくというのは、大変重要かと思っておりますので、ぜひご検討をお願いいたします。

あとホームページで、海洋高校のいろんな商品づくりのことが紹介されております。この商品づくりの過程とかエピソードを紹介するために、当然、海洋高校のホームページもあるんですが、行政といいますか、観光協会とかそういったところでも、この海洋高校の商品化にまつわる動画とか、漫画とか、アニメでもいいんですが、そういったものを作成しながら高校生の頑張っている姿を配信していただきたいと思いますと思うんですが、そういった考えはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

最近、感じておるところでありますけども、高校生のそういう活躍というのが広くやはりマスコミ等で取り上げられて、市民の皆さんも関心をお持ちになっていると思います。

先ほど申し上げました、うまいもん甲子園等もそうでありますけども、そういうものをやはり高校生の活躍、活動をPRしていく部分も、大変必要なことだというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

動画とかに関してはあまりお金をかけないで、本当の高校生の姿を撮ったもので、了解を得た上で放映していけばいいと思いますし、漫画とかアニメといたしましても、それもあまりお金をかけないような、パラパラ漫画といたしますか、ああいったもので何か雰囲気発信していただければよろしいかなと思いますので、そういった点でも、ぜひ工夫をお願いいたします。

続きまして、2番、特色あるまちづくりに移ります。

もうける自治体というと、ちょっと響きがあれなんですけども、6月議会で提案いたしました、福祉や教育の維持や拡充を図るためには、自治体みずから産業を興していく時代になったというふうに考えております。

民間活力を生かすことは当然なんですけども、民間では取り組みが難しい分野というものがございませう。新幹線開業に伴い交流人口拡大として、観光による誘客が一番だと私も思っております。でも、その一方で仕事や会議、冠婚葬祭といった観光以外のもので、定期的に糸魚川へ足を運んでいただく仕組みづくり、そういった事業を展開すべきという観点から、今回、提案をさせていただいております。

番の「エコパークいずもざき」のような施設設置についてでありますけども、一般廃棄物最終処分場調査対策特別委員会でも発言させていただいたんですが、県内外を含めて広域で利用できるごみ処理施設の設置を考えた理由は3点ございませう。

1つ目は、県内外の業者の受け入れをすることによる業務上の交流人口の拡大。

2つ目は、糸魚川市の一般廃棄物最終処分場で水銀が混じっているこのごみを、再処理できる環境が整えられるということ。

3つ目は、糸魚川市の産業廃棄物処分場の閉鎖後の対応が可能になる。

現在、一般廃棄物最終処分場にある水銀を含む埋め立てごみについて、掘り返すか調査を行っております。ただ、膨大な費用が予想されるため、どのような結論になるのかちょっと想像できません。

そこで県レベル以上の施設誘致を図って、溶融炉方式の焼却施設や広域の最終処分場を県の中心によってつくってもらえう。糸魚川市は身の丈の処理施設をつくっていけば、当初の279億円のコストも大きく減らせるんじゃないかという考えから提案しております。

県の溶融炉焼却施設を設置し、その施設を利活用して、時間をかけて大野地区の掘り起こしをすれば、大野地区は30年かけて処理してもいいというふうに公言しておりますので、そういった環境整備にもなるという観点から、提案させていただいてるんですが、確かに環境、また、地域住民の了解が必要なんですけども、こういった考えについて真剣に取り組んでいただきたいと思うんですが、その辺いかなるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

おはようございます。

今ほどいわゆる県だとかの力を借りて、何とか廃棄物を処理したいというお気持ちはよくわかります。しかしながら、エコパークのような県内外から多くの廃棄物を集めるということは、やはり

一定の規模以上の大きな面積も必要です。それから当然、市内への環境負荷が出てまいります。そういった面から、先ほど市長がお答えしましたように、なかなか住民だとか、あるいは周りの市内の市民の方々の理解というものが必要になります。

そういったことから、お隣のかつての上越市の状況、あるいは合併前の状況等も考えれば、今の段階では、非常に難しいのではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

私がこのように提案をするに至った理由が1つございまして、自治体から出る廃棄物は、その自治体で処分をするというのが原則であります、承知しております。しかし、さまざまな事情で処理ができない自治体というものもあります。現在の糸魚川が、そういう自治体に当たると思っております。

もちろん、廃棄物の受け入れは地域の理解と協力が不可欠で、受け入れるにしても安心して安全なもの、それがクリアされてなければならないというふうに思っております。その上で、この地にそういう施設があって、収益が出て雇用の方が生まれるのであれば、私は検討する価値があると思えますし、現在、当市で行われているセメント会社による汚泥処理が1つの例ともいえます。

今後の糸魚川市のごみ処理方法の規模については、市内の人口を基準に検討されておりますが、道州制、大災害時の助け合いの精神から考えれば、糸魚川市が広域の廃棄物最終処分場の施設を建設し、長野県、富山県、新潟県など広い地域をターゲットにしていけばいいと思っております。

米田市長は汚泥についてであります。基準値以下の汚泥を受け入れて助け合いのためというふうに説明していたかと思うんですが、そういった精神で今回の「エコパークいずもざき」のような施設の誘致について提案しておるんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

提案の内容は十分聞かせてもらいまして、大分理解はできるんですけども、ただ、一番問題なのは、いずもざきのほうも、今、60ヘクタールという相当広大な面積が必要になっております。そういったことで、今、それだけの大きな面積を、この糸魚川市の急峻な地形の中で確保するということ、その辺が非常に環境負荷も大きいのではないかと考えております。そういったことで、総合的に考えまして、難しいというふうに考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

環境負荷云々という話をされるのであれば、もとより大野に水銀が混じったようなごみを入れな

いような体制を、つくっておくべきであったのではないかというふうに思います。もし後、時間があれば言いたいと思いますが、今までの大野区と行政のやりとりを見てきたことを踏まえて、今回提案しとるわけなので、その辺をご理解いただきたいと思います。

続きまして、一番の西洋の庭園のような美しい墓地公園の設置についてであります。市内には3カ所公営墓地がございます。それらの規模とは全く違うもので、墓地という響きではなく、海に見えるメモリアルパークみたいな記念碑的な扱いとして、地元の方はもちろんですが、狙いは新幹線や高速道路を利用して糸魚川に来てくださる方を創出する公的施設という意味で、提案させていただいております。

核家族が進み、お墓の維持管理の考え方も多様化しております。また、お葬式の形もお墓の形も多種多様となっております。そのような背景から、四季折々の景観がすばらしい糸魚川市を首都圏の方々に第3のふるさととして提供し、ご利用いただくという考えであります。

格安で墓地を提供し、糸魚川市指定の墓石店等を利用してもらうような、また、年に1回必ず来てもらうとかいろんなまた条件を付加して、そういう墓地公園を運営をしていけば、交流人口の拡大にもつながるという観点から提案したんですが、再度その辺の考えについて、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当市は合併前に、そういった1つ経験もあるわけございまして、その経験からいたしましても無理だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

無理とトップの市長が言えば、無理なんだとは思いますが。ただ、新幹線が開業して、今いろんな面で地域の方も行政も観光でしっかり対策を打って、人を呼び込もうという努力をすごくされております。イベントの数を見ても、それは重々わかります。ただ、これは他の自治体も同じように、いろんな努力をされております。

そういった中で、安定的に定期的に人を呼び込むとなれば、特殊な、特色のある施設で人を呼び込まなければ、私はなかなか糸魚川は厳しいのではないかというような思いから、今回提案してるんで、難しいのは正直、重々わかっておるつもりであります。

ただ、何かアクションを起こして、糸魚川がしっかり生き残っていく、そういう気持ちを込めて今回あえて提案しているので、これが全てとは言いません。ただ、ほかにまた方策があればぜひやっていただきたいんですが、こういう考え方もあるということでぜひご認識いただきたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ほかのことであれば、我々は一生懸命そういうふうに向かっているが、なかなかちゃいけないと思いますし、それに対しては、やはり調査も研究も検討もしなくちゃいけないと思いますが、墓地に関しては、私は難しいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

続きまして、一番の佐賀県の武雄市や和歌山県の北山村のような公共施設についてであります。

図書館については佐賀県の武雄市が、レンタルビデオ大手のT S U T A Y Aが運営するカルチャーコンビニエンスクラブという会社と、公立図書館の運営を委託して成功をおさめております。4月にオープンで、これ古い数字で申しわけないんですが、6月1日現在での来館者が18万9,000人、1日の平均利用者が3,312人と、昨年の同期は709人しかおらず、約5倍になっていると。

その特徴が、午前9時から夜9時までの開館、年中無休、T S U T A Y Aのポイントカードが利用でき、1回の貸し出しでポイントがつくと。人気カフェのスターバックスコーヒーが入店している。そのカフェで蔵書を読むことができる。委託費は年1億1,000万円で、従来の運営費1億2,000万円より1,000万円安くなっていると。こういった取り組みがあるんですけども、当市でどこまでできるかわかりませんが、ただ、民間のカフェとかそういったものを提供することによって、少しは公共施設の運用益というのが上げていけるんじゃないかと思って提案したんですが、その辺の考えはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

民間の企業との連携によって、にぎわいの創出ですとか経費の節減、また、利便性の向上にかけるといふところの視点というのは、この武雄市の例で私も大変学習できたなというふうに考えております。

ただ、その目で逆に糸魚川市を見た場合に、それだけのスペースがあるか、また、いろんな条件が整っているか、また、ロケーションがそういうところにあるかということで、かなりこれを導入するには、なかなか難しいところがあるなということで、今、簡単には、同じことはできないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

私も立地条件から、全く同じことはできるというふうには思っておりません。ただ、そういった視点、考え方をぜひ取り入れて地域の活性化、または公共施設のあり方というものに変化を加えていただければなと思います。

高齢者の割合が多い地域にとって、今、公民館のあり方というものが注目されております。私は以前から提案しておりますが、公民館というと教育委員会の管轄になっちゃうんですけども、市の職員がいて、金融機関があって、コンビニみたいなよろず屋のお店があって、みんなが集まる憩いのカフェみたいなものがあれば、この公民館というものが地域の拠点化になり、地域にとっても、その利用する方にとっても、非常にいい形になるというふうに私は思っております。その公民館みたいなものを地域の拠点として、ぜひ検討していただきたいんですが、その辺はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

地区の公民館は、今、社会教育とか生涯学習とかという教育委員会の形ではなくて、今、地区公民館は、やはりコミュニティもその中に入っていけるような形にしとるわけでございますので、地域の皆様方の考えによって、またいろんな考えがその中に組み込まれる可能性もあるわけでございますので、今ご指摘のところについても、工夫によっては組み込んでいけるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

もうけるという観点からちょっとずれるんですが、今、買い物弱者等々、そういった過疎地域の問題がございまして、その意味でのコンビニであったり、金融機関であったり、憩いの場という提言であります。

今、その買い物弱者ということで、以前の一般質問で、ここで2回ほど取り上げさせていただいたとき、今、郵便局の動きとして何か新しい動きがあって、8月26日の報道で、郵便局が高齢者向けの安否報告と買い物支援サービスというものを10月から一部の地域で始め、平成26年4月から全国展開するというふうに報道されておりますが、これが今まで答弁の中で言われていた、その郵便局の事業というふうに理解してよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

これまで保坂議員にお答えしてきた郵便局の動きが、今そのような形で報道されておりますけども、まだ詳細につきましては明らかになっておりませんし、26年度からの全国展開がどれだけ現実になる部分かっていうのは、まだ確認できておりませんので、今後、情報収集に努めてまいりたいと考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

26年4月からという全国展開という話もございますので、ぜひ有効であればどんどんアピールしてほしいですし、もし糸魚川市になじまないようなものであれば、またさっき言った公民館を中心にした地域の拠点づくりというものを検討していただきたいと思います。

次に、4番目の耕作放棄地を中心にバイオエネルギーの生産を官民でという話でございます。

有名な話で、この大分県の日田市の大山町ですか、桃栗つくってハワイへ行こうとか、あと徳島県の上勝町ですか、葉っぱビジネスで地域が盛り上がったと。そういうようなのを見ますと、やっぱり糸魚川市でも、この糸魚川市の気候に合ったもので作物をつくって、あまり手をかけずに育ったものがバイオエネルギーとか、そういう商品化できるものを栽培してほしいと思うんですが、今、建設産業常任委員会でも薬草という話が出ておりますが、そういったものを研究し、放棄地を利用していくという、そういう考えは行政主導といいますか、糸魚川市としてそういったものの考えについて、今どのように考えているか、お聞かせいただきたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

耕作放棄地の有効活用だというふうにお聞きしております。

今、市内では、人・農地プランを13地区、昨年度、プランをつくらせていただきました。地域農業、集落営農を、地域でどのように考えていくかということでございます。ことしに入りまして、そのプランを地元のほうへお持ちいたしまして、具体的に意見交換をさせてもらってるわけであり

ます。やはり担い手、耕作放棄地をどのように活用していくかというところが、地域の中でしっかりと意見交換でき、具体的な行動ができるように、市のほうとしても支援していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

提案というか要望にしておきますが、いろいろ調べていきますとソルガム、もしくはスーパーソルガムという植物がございまして、これがエタノールの製造について非常に注目を浴びてるということなので、福島で災害があったときに、セシウムが何かを吸収する植物として実験栽培が

されたりとかされてるんですが、今、インドネシアで、これが注目を浴びてるといことなんで、もし糸魚川の土地柄に合う植物であれば、ぜひそういったことも検討していただきたいということで、情報提供といいますか、参考としてご報告しておきます。

次に3番、もうける観光戦略であります。

新幹線開業まで、あと1年7カ月ほどになります。今現在、誘客ターゲットを絞り込み、その方たちの受け入れ先や、喜んでもらうためのサービスを構築し、どのような形でお金を落とさせていただくのか具体的な企画がないと、せっかくの新幹線の開業イベントが、開業記念のためだけに終わる可能性がございます。

ジオパーク世界認定を思い出していただきたいんですが、認定はされました。じゃあどこへ行けばいいのかわ、勝手にご自分で行ってくださいみたいな形ではお金が落ちません。新幹線開業イベント後、お客さんにここに来てください、ここで泊まってください、ここで食べてください、ここで飲んでください、お土産はこんなのがありますよといった、具体的に見えるような戦略が必要と思うんですが、その辺、今の段階でどのようになっておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに議員さんおっしゃるとおりだと思っております。先ほど市長答弁でもありましたとおり、どこでお金を落とさせていただくかということ、やはり食べていただいて、泊まっていただいて、それからお土産を買っていただく。やはりそういったところでお金を落としてもらうというのが、非常に重要であります。

そういう中でいえば糸魚川の食は、おいしいというのは言われておりますけれども、やはり来ていただいた人が何を食べればおいしいのか。やはり食のPR、おいしいだけじゃなくてその美しさ、そういったものも必要になると思いますし、泊まるにしても泊まる場所、どういったところがあって、どういう形で、どういった値段で泊まれて、さらにやはりそこのおもてなし、そういったものも重要になってきますし、今まで1泊で帰っていった人、もしくは日帰りの人、そういう方を1泊、もう1泊ふやしていただくような取り組み、そういったものが必要になってきます。ただ、やはりそういった部分というのは、行政主導でやるというのは非常に難しい部分があると思っております。

そういう中で、今、観光協会の強化、そういったものに取り組んでおりますし、ジオツーリズムの推進協議会、そういった方と連携する中で、行政だけでなく民間の力、そういうものを結集する中で、よりよい商品の開発に努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

全くそのとおりで、観光客が求めるものと糸魚川が用意できるもの、これがミスマッチしていると、幾ら宣伝をしても効果が出ませんね。糸魚川市が用意できるものは何か、糸魚川市が観光客を選択

するとしたら、どのような方に来ていただくか。そういうところに集中的に情報発信をしていくという考えが必要かと思えます。

テレビの情報の受け売りになりますが、戦略として参考になるなと思いましたので、ちょっとご紹介させていただきますが、北海道の歌登という、札幌から北へ200キロ以上も離れているところに、タイの観光客がどどっと押し寄せているというニュースがございました。年間の宿泊利用者は、2010年には200人、2011年には400人、2012年には800人、2013年には今1,600人になりそうだということでございます。

この仕掛けが、この地域で宿泊施設というのが、うたのぼりグリーンパークホテル1件のみだと。そこに皆さん、タイの観光客が押し寄せてくると。普通のビジネスホテルみたいなホテルであります。このホテルの企画がすごくて、見る観光はないんだと。でも、感じてもらう観光なんだと言い切っております。

その内容は、夕方バスが着いて、6時半にタイの観光客全員に浴衣に着がえてもらう。夜の7時半からは、マグロじゃないんですが、ハマチの解体ショー、季節によってはサケも使うそうですが、それを解体すると。そしてにぎり寿司を体験してもらうと。ネタを用意して外国人の方に握ってもらうと。夜の8時10分になると和太鼓の鑑賞、当然、飛び入りもできると。夜の8時50分には餅つき大会、流しそうめん、たこ焼き、縁日の射的ですね、パンとやる。それがタイの観光客に物すごく受けて喜ばれていると。見方によっては日本人であっても、そういったものを経験していない人にとっては、その餅つきや流しそうめんというのが非常に喜ばれていると。このホテルは、日本の文化をもっと知ってもらいたいんだと、そういう観点で成果を上げていると。

本会議初日の総務文教常任委員会の所管事項調査で、権現荘が直営でまた継続されるという報告がございました。外国人の観光客を絞って対応していけば、権現荘の取り組みとして民営圧迫にもならないので、ぜひこういった着眼点で取り組みを行っていただきたいんですが、その辺いかなうものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

確かに今、聞いた限りではそういう取り組み、本当に素晴らしいことだと思います。

じゃあ当市はっていうと、やはり当市の一番のものというのはジオパークであり、それからおいしい食であり、それからやはり文化、そういったものも非常に当市の特色あるものというふうに思っております。ただ、そういう中に、今、言われたようなものが入ってくることによって、さらに特色ある観光になっていくんでないかなと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

全然ジオパークのことは、否定してるつもりはございません。日中ちゃんと見学なり見てきた後、

帰ってきてからホテルでのサービスとして、こういうものでやるということであって、そこはちょっと誤解してほしくありませんし、そのとおりであります。

あともう1つ、観光ガイドや車掌さん、バスやタクシーの運転手さんなど観光客と直接触れ合う方々に、おもしろいしゃべりといいますが、いろんな案内というか、そういうものを手がけていただきたいと思います。委員会でも言いましたが、DJポリスとか、あと箱根登山鉄道の車掌さんとか、あとディズニーランドのジャングルボートでいろいろ解説しながら、おもしろおかしくボートを漕ぐスタッフがいるんですけども、そういったものをぜひこのジオパークのガイド、または普通の公共交通の中での案内とかにぜひ育て上げていただきたいと思うんですが、そういったしゃべりのプロからレクチャーを受けるという、そういう研修をぜひ進めていただきたいんですが、その辺は、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに、そのとおりだと思います。いろんな観光地へ行ってガイドの説明を聞いても、やはりただガイドするだけじゃなくて、来た人たちの興味を引きつけるようなそういった話し方、そういったものが重要になると思ってますので、そういった研修等にも努めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

ぜひいろんな取り組みをしていただいて糸魚川が活性化できるように、またご努力をよろしくお願いいいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。

議長（樋口英一君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

昼食時限のため13時まで休憩いたします。

午前11時58分 休憩

午後 1時00分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。〔9番 伊藤文博君登壇〕

9番（伊藤文博君）

清生クラブ、伊藤文博です。

1、交流人口の拡大による地域活性化について質問いたします。

新幹線開通を1年7か月後に控え、市長の公約にもある交流人口拡大策の確実で効果ある実行は待ったなしの状況です。

また、世界ジオパーク認定も最初の更新審査を終えて、これからの取り組みと成果が問われるところでもあります。

具体的な対策について伺います。

- (1) ジオパークを核とした交流人口拡大策には、お客さんの目線での対応が求められます。色々な立場であらゆる方々が前向きに取り組んでいるところですが、今一つ、効果の程が一般市民に感じられるところまで達していません。今後の方向性、具体的対策について伺います。
- (2) 糸魚川は「食の宝庫」だと思います。他所へ出掛けても、糸魚川市の食文化の高さを見直して帰ってくることになる経験は皆さんが持っていることだと思います。交流人口拡大策の大きなポイントは「食」であります。どう売り出して交流人口拡大に最大限の効果を引き出しますか。
- (3) 新幹線開通は1年7か月後になりました。新幹線開通による利便性の向上を、糸魚川市に来る人を増やして交流人口が拡大する方向に活かしていかなければなりません。一過性に終わらない息の長い対策を講じ続けていく必要があります。どのように考えていますか。
- (4) 駅周辺の活性化も大きな課題です。どこの地方都市でも駅周辺の衰退は激しいものがあります。糸魚川市の玄関口として活性化を図るためには、駅周辺に明確な機能を持たせる必要があると考えます。官・民の役割分担を明確にしながら市民参画、市民協働を促進し、官・民共通の認識の基で活性化を図っていく必要があります。駅前商店街は、各地主家主の所有でありながら、中心市街地という点で糸魚川市民共通の財産でもあります。どのように活性化を図りますか。
- (5) 以上の各項目は密接に関連し、それぞれが相互に良い方向で関連しながら地域活性化を図っていく必要があります。総合的にどのように進めていきますか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、ジオパークを活用した効果的な事業展開を図るため、ジオパーク戦略プロジェクトを策定し進めております。その中の受け入れ体制整備プロジェクトを地道に取り組むことにより、市民一人一人がジオパークの担い手となってもらえるよう進めてまいります。

2点目につきましては、糸魚川の食は交流人口拡大の誘客ポイントであり、ブラック焼きそばや

ジオ井など民間事業者と共同して、魅力的な食となるよう引き続き進めてまいります。

3点目につきましては、行政と民間が一緒になって集客力と継続性のある事業を実施し、糸魚川に行ってみたいと思わせる魅力の発信に努めてまいります。

4点目につきましては、駅北の広域商店街と商工会議所、市による駅北にぎわいづくりの懇談会を本年2月から設けているほか、広域商店街においても独自に勉強会を実施しております。

また、駅前銀座商店街組合では駅北の各商店が、空き店舗の活用を含め新幹線開通によるチャンスをどのように生かし、にぎわいづくりにつなげるかについて取り組んでおりますことから、市と商工会議所が協力して支援してまいります。

5点目につきましては、今後ともジオパーク戦略プロジェクトに基づき、庁内はもとより各種団体との連携を図りながら、ジオパークを活用した事業展開を図ってまいりたいと考えております。以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくご質問申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

今ほど答弁にありました戦略プロジェクトの平成24年から28年の計画では、情報発信・誘致拡大プロジェクト、受け入れ体制整備プロジェクト、鉄道を利用した交流人口拡大プロジェクトの3部門に区分して計画しています。

情報発信について伺います。

この中で関係者とのタイアップによる戦略プロモーションというのがありますが、この戦略プロジェクトを読む限り、日本全国のジオパーク推進地とのタイアップという視点が欠けているんじゃないかと思いますが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回、策定した戦略プロジェクトでは、どちらかというと、当市の取り組みという観点でつくっておりますけれども、現在、日本ジオパークネットワークの中でも、全国のジオパークとの観光交流、そういったものがないかというところで、現在、検討している最中です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

各ジオパークとの観光交流、これはいいんですけど、実際、全国的に見て、まだまだジオパークそのものの知名度が足りない。これに取り組んでいくためには、糸魚川市だけでやっているのでは、やはり大きなエネルギーが必要である。やはりネットワークで協力し合って、ジオパークその

ものの知名度を高めていくというような提示が、やっぱり必要だと思うんですね。糸魚川市だけで取り組んでいくには、やはり厳しいものがある。だから協力し合って、力を出し合って、強力でそのところを推進していくというのは、やっぱり必要ではないかと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のように、やはりジオパークに取り組んだ地域は、それなりに今、ジオパークに関心が高まっておりましてありますが、全国的に見た場合には、まだまだ知名度がそう高くない位置にあるわけでありまして。

しかし、そういう形で広がりつつあるわけですので、各ジオパークと今ほど交流といたしましたが、交流観光というツーリズム的にジオツーリズムをどのように確立するか、今、検討させていただいて、そしてそのネットをしっかりと位置づけし、旅行業者と連携をとって広めていきたいと。一体となったやはりPRを一気に出していきたいという、今、捉え方をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ジオツーリズムという考え方の中で、それぞれジオパーク各地が連携しながら活動していくことによって、徐々にジオパークの知名度が上がってくるというのがあると思うんですけど、やはりそういう取り組み方、これは要するにジオパークそのものを推進していく中に、徐々に広がっていくことを期待するわけですけど、やはりどうしても我々はジオパークに期待する立場で考えたときに、観光関係者から、ジオパーク自体がまだまだ知られてなくて関心も薄いですよと、一般国民の、そこにもっと何とかならないかというものを感じるわけですよ。やっぱりそこに、プラスアルファの取り組みが必要だと思いますね。ジオパークそのものをいかに多くの人たちに、当たり前のよう理解してもらおうかというところですが、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全国展開させるにいたしましても、ある程度のやはり評価をするものだと、それに値するものだというその点が大事だろう。その辺を今、一旦、日本ジオパーク全体の中でその位置づけをさして、それと同時に、そういう形へもっていききたいという考えであります。

各ジオパーク間での連携といいましょうか、交流でしょうかね、要するに視察旅行的に捉えるよ

うなものをつくりながら、そういった行動、活動をやはり訴えていくという形も1つのインパクトのあるものに、その方向で今捉えさせていただいております。その中には、やはり大手の旅行業者も中に入れながら、情報発信をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

やはり共通した認識の中で、自分のところだけじゃなくジオパークそのものという感覚が、やっぱり必要だと思いますね。

私の東京の友人が、ふるさと糸魚川に強く愛着を持っていて、例えば食談会にも足を運んでくれたり、ネスパス等を夫婦で出かけて情報を伝えてくれる。糸魚川の情報が少なくてがっかりしたと、ネスパスですね、そういう連絡をもらって東京事務所へすぐ連絡して、チェックして対応してもらったということもあります。

私の友人も含めてですけど、東京から見ていると糸魚川市がどのように地域振興を図ろうとしているのかよくわからないと、見えにくいというふうに私自身がハッパをかけられ、何とかしろよということが多いんですが、強い関心を持って人にも糸魚川の情報が伝わっていないというのが、やっぱり反応として現実に感じるわけですね。この辺はどのように捉えて、どういうふうにしようとしていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

確かに私も東京糸魚川会とか関西糸魚川会の方と懇談する中で、糸魚川の情報がなかなか届きにくい、わからないという、そういう話を聞いております。

やはりどういう形で情報提供すれば一番いいのかって、糸魚川市のホームページを見ていただければ、それなりの情報というのはわかるんですけども、じゃあピンポイントで今のまちづくりとか、そういったものを伝えるとなると、ホームページの限界というものもあるのかなというふうには思っております。

そういう中で午前中に質問のありました、渡辺議員のふるさと市民制度みたいな形で関心のある方に適切な情報を与えていく、情報提供する、そういったのも1つの方法かなと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

情報の取り方というのは、自分から取りに行くのと、相手から与えられるものとあると思うんですね。ですから例えば登録していくことによって、定期的に糸魚川市からのお知らせメールが届くとか、渡辺さんの言ったものとちょっとリンクするところがありますけど、いろいろと情報発信

していく手法を考えていったほうがいいと思います。

一般市民にもジオパークって言ってるけど、何も見えてこないという感覚の人が多そうですね。私もそういうメールももらったりします。これはそれだけ期待が大きいということなんですよ。期待に比較して実感が薄いという意味で、全く何もないとは思ってないんですね。確かに取り組みも進んできて、効果があらわれてきていることは間違いないところですが、市民丸ごとジオパークとか、糸魚川丸ごとジオパークというところにもっていくには、まだまだもう少し工夫が必要である、どのような取り組みが必要であったと考えているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

議員おっしゃるように市民全体として見たときに、実感が湧いてこないという声もある一方で、かなり頑張ってるねっていう声があるのも事実だというふうに思ってます。実際的には、本当に多くの市民の方からジオパーク活動に参加してきていただいているのは事実だと思ってます。

ただ、その一方で、やはりジオパークに関心がない、ジオパーク活動にあまり参加していない。やはり関心があるかないかでジオパークの動き、効果、そういったものの見方も全然違ってこないかなというふうに思っております。

そういう面で、やはりジオパークに関心を持ち、それからジオパーク活動に参加していただけるよう、より多くの市民に呼びかけるような活動、ジオパーク戦略プロジェクトの2つ目の部分になりますけれども、そういったところを着実に推進していくことが、市民全体に広がっていくんでないかなと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

やっぱり関心のない人を引きずり込んでいくというところが、これからの課題であろうと。関心のある人は、当然、積極的ですし、いろんなイベントにも参加してますし、みずから主体的に動いてる方も多そうですね。ただ、ジオパークで糸魚川を何とかしていきたいというところを到達点で見たときには、やはりより多くの人に関心を持っていてもらわなきゃいけない。

先ほどの市外からの話と絡むんですが、ふるさと糸魚川同窓会応援事業では、糸魚川の情報発信を行うことにしてますよね、いろいろなものを配布したりして。ここではぜひ情報収集も行うべきだと思います。市外に住む糸魚川出身者からの情報は、かなり有効ですね、どのように見えているか。糸魚川に全く縁のない人に糸魚川の情報が入ってくるかどうかということよりも、まず先に糸魚川に関心のある人にすらどのような現状であるのかということ、こういう機会にしっかりと情報収集して、その分析と対策の樹立に生かしていくという取り組みが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

同窓会事業につきましては今年度の新規事業で、大変ある意味、好評いただいています。

また一方で、当初の目的といいたいまいしょうか、こちらの狙いとすれば、やはりUターン・Iターン等の将来的な部分も含めて、先ほどのふるさと納税も含めてでありますけども、そういったこと。さらには地域経済の活性化、この部分については非常に今のところ効果を出しているというふうには思っておりますけれども、それ以外のUターン・Iターン情報とか、いわゆる定住情報の関係については、すぐ効果があらわれるというもんでもないというふうには思っております。

伊藤議員のおっしゃる部分についても現在の状況の中では、積極的にそういった情報を外へ出しているという状況でありませぬので、その辺も今後の開催に向けての1つの課題と受けとめさせていただきますというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ここの出席者からいろいろ情報をもらう。どのように糸魚川市が見えてますかということを中心にして、それからさっき言った糸魚川市からの例えばお知らせメールとしまししょうか、お知らせメールを受け取りますかというようなことの中で、登録してもらう中で情報発信をしていく。そしてUターン・Iターン・Jターン情報についても、空き家情報だとかいろいろな市の取り組んでいる、戻ってくる人たち、それから市に入ってくる人たちにとって、こういう糸魚川市は就職の補助金を出してるとかいろいろな情報についても積極的に発信していく。

ホームページに載っていても、やっぱり見ないんですね。一生懸命探していれば見るんですけど、なかなかそこに到達しないという、面倒くささもありますから、そういうふうに取り組んでほしいと思います。

それから戦略プロジェクトの中に、糸魚川市の知名度の低さを逆にとり、よいイメージ、オンリーワンの魅力を強力に打ち出してとありますけど、具体的に、どのように強力に打ち出して印象づけていくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

やはりオンリーワンというところですので、他の地域にはない糸魚川市の特徴、そういったものを売り出していく、それを入れた商品を出していく、そういったことが必要なのかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

強力に打ち出して印象づけていくということですから、どのように強力に打ち出すのかと云って
るんですよ、オンリーワンとは何かという話をしてるんじゃないで。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1案といたしましては、新幹線の中に雑誌が毎月出るわけですが、その一番後ろの表紙
に、「糸魚川市」と漢字で書いて読めますかと。やはり関心を、少し注目してもらえるようなアピ
ールをしていきたいと思っております、そういうのをやはりこれからどのように打っていけばい
いのかというところで、振り向いてくれる、気づいてくれる、そういう気づきをつくっていかなく
てはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

先ほども言いましたが、情報には自分から取りにいく情報と、意識せずに目にする耳にする。

先ほど言われた新幹線の冊子の一番裏のページですね、「糸魚川」って書いてある、心の中で読
んでくれと、どこにも平仮名で「いといがわ」って書いてないんですね。ところがアルファベット
で、「I t o i g a w a G e o p a r k」と書いてあるから、そこに気がついた人は、うん、な
るほどなというところがある、非常におもしろいなと思います。同じ情報でも、おもしろく伝える、
取りにいきたくなる情報の形にする工夫というのが必要であろうと。

また、情報入手の手段として、今の情報がいろいろあふれてる。その形態をしっかりと調べて検討
した上で有効な手段をとる。ありとあらゆる情報提供の形に合わせた情報をこちらからどんどん出
していく。そういう情報発信の手法というのが、必要になってくると思うんですね。

だからどういう情報を出すかという、オンリーワンとは何か、こういうオンリーワンがあるんだ
よということに対して、それをどういう媒体で載せていくかというところは相当研究しながら、変
化に応じたやり方が必要であると思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に議員ご指摘のとおり、全くそのとおりだと思っております。デジタルの時代の中で、それ
を先駆けて進めていくことも大事。また、逆に逆手に取って、アナログ的なところでまた示すこと
も大事だろうと思いますし、大きい花火を上げればいいのか、また、その時を見て適した花火を上
げればいいのかという。

やはりことしの夏の糸魚川の花火を見ててわかったのは、遠くで大きいものを上げればいいのか、近くで小さくてもインパクトのあるものが印象づけられるものもあったりして、そのようなことを1つ考えても、我々は人と同じことをやっても、誰も振り向いてくれないわけでございますので、それをどのようにしていくかというのは、非常に工夫していかなくていけないだろうということで捉えさせていただいて、今、1つ進めたわけでございますが、情報を取りにきてくれる方は、それなりに関心があるから見ていただくんですが、そうでないところに、どのようにかけていくかというところを、やはりもう一度しっかり考えた中で、手を打っていかなくちゃいけないんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

こちらが伝えたい情報を、例えばDVDにして見てください、まず見ないですね、本当にどうしても必要なものでなければ。やっぱりそういう1つのDVDを、例えばプレイヤーの中に入れて見る、そのことですら、その手段が1つあるためにやっぱりなかなか見ない。

ところがネットですと、パッパッとすぐ出てくるとか、今、スマホとかタブレットPCの時代ですから、そういうところもあるし、また使わない紙媒体も必要と。言われるとおりですので、ぜひいろいろと研究しながら進めてもらいたいと思いますね。

それからジオパークを含めて、交流人口の拡大に取り組んでいる方々の思いは同じベクトルなんです、到達点は同じなんです。ところが、どうもまだばらばらにやってる感がありますよね。そんなひどいばらばらじゃないんですけど、もう少しまとまって連携して、このことと、このことを協力したら、もっとうまくいくのにとというようなことがある。お互いに常に情報交換しながら横の連携を深めて、動きやすいネットワークをつくっていく必要があるんだと思いますね。

これはチーム糸魚川という考え方と重なってくるわけですけど、ポイントは日常的な情報交換だと思うんですよ。何とかの会議でやるとか、会議になるとしゃべらないでしょう。大勢の人がいて、一人一人が思いのたけしゃべってたら、なかなか会議が進まないから、結局、たくさんしゃべれば、もうあいつはしゃべり過ぎると言われるぐらいの話になる。だから日常的な情報交換だと思うんですよ。やっぱりここには、非常に工夫の余地がたくさんある、また、工夫するべきだと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えします。

まさしくそのとおりで、今、我々は全国に、また市内の皆様方にも情報発信するものは、非常にたくさん手段を持っとるんですが、しかし、今、議員ご指摘のように、どのような形で上げたって見てくれなかったり、自分の心の中に受けとめてくれなかったら、全然開かれないことになるわけございまして、それが今、一番の広がっていかない1つの理由でないかなと思ってる次第でござい

ざいまして、先ほど渡辺議員のご指摘にあったように人と人とをやっぱりつなげること、そういったことを先にやって、その中で広げていける。その中で、あといろんな手法によって開いていけるんだと思ってまして、その辺をつなげていくことが、まず先かなと捉えてる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

その思いを、具体的に形にしていかなきゃいけないわけですよ。それもやはりいろんな人が意見交換しながら、いろいろ工夫を重ねていく。

例えば、適切かどうかわかりませんが、ジオパークコミュニケーションコーナーなんていうのがどこかにあって、そこはいつも人が来て何かわいわい、わいわいと、地域活性化について話をしているなんていうところができたら非常にいいと思います。この点は、やはり本気になって検討してもらいたいと思いますね。

次、食のほうへいきますが、食は人を呼ぶには最大の武器だと思います。

系魚川市は食材が素晴らしいことによって、おいしいものには事欠かない。北海道旅行へ私も行きましたが、食べ物に非常に期待を持っていったんですけど、全然期待外れなんですね。系魚川でうまいもん食べてるから、北海道でもそんなにうまいと思わない。いや、おいしいですよ。おいしいけど、当たり前でしかないということですね。そういう経験を持ってる人も多いと思います。しかし、それと売るということは違うんですね、あるということと売るということは違う。その売るということについて、どのように考えているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

確かにおいしい食があっても、食べていただかなければ意味がないわけでございます。昨年、はとバスツアーの参加者400人に行ったアンケートでも、参加したいツアーとして、やはり温泉に宿泊して、四季折々の山菜料理や地魚料理、それから地酒を楽しむぜいたくグルメツアーというのが、一番人気という形になっていました。

そういうのを考えると、当市の素材というのはそれら全てがあるので、そういったものをうまく組み合わせて、やはり行ってみたい、食べてみたい、泊まってみたい、そういった商品づくりを、やはり行政でつくれるものではありませんので、観光協会とか民間事業者と協議する中で、そういった方向で進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

今、最後のところにありました民間と協議しながら進めていくという、やっぱり行政は行政でトー

タルにものを考えてる中で、例えばお酒の部門の人とか、いろんなもののコーディネーター役をしていかなきゃいけないということなんです。

そこで来訪者、来てくれる人の視点でものを考えていく必要があります。糸魚川の飲食関係が、これまでそれぞれ努力をしてきたという部分にプラスして、何らかのやっぱり取り組みが必要だと思っんです。やっぱり取りまとめた情報の発信の仕方とか、例えばブラック焼きそばとかジオ井にいわれるような1つのテーマを決めた取り組みとか、それとか季節折々の取り組みとか、何かそういうものが必要になってくるんじゃないかなと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これは食だけではないかと思うんですが、やはりストーリー性が大事だろうと思っております。

まずは、やはり当然、質のいい食材、それにプラス、ストーリー性、地域性なりいろんなものを、やはりそれに織りまぜて提供することが、魅力のある提供の仕方になるんだらうと考えてる次第でございます。我々のところはやはり少量多品目という形の中で、そしてなかなか季節ごとに変わるという、そういったところをやはり強く生かさなくてはいけないんだらうと思っております。その辺を整理をしながら、提供していくことが大切だらうと思っております。

それともう1つは、やはり横の連携というのが大事になってくるわけでございます。先ほど1つ例にいただきましたように、ジオ井にいたしましても各店舗が違う井をつくってても、ただ、それはジオ井という1つのテーマがなかったら、単なる井での1つの店としてのものでしかないんですが、ジオ井という名をつけることによって、また楽しみなりがつながるという部分が出てくるわけでございますので、そのようなことが手法になるんだらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

情報をまとめて伝えて、利用者にわかりやすくして利用してもらおうという観点を意識した取り組みも必要じゃないか、要するに飲食店なんか、テーマを与えて。これは何も新しいメニューづくりだけとは限らないわけですけど、糸魚川の食マップというようなものを考えたときに、その食マップをつくることによって、また課題が明らかになってきて、その飲食店にこういうふうにしたいんだけど、おたくで何かないですかというようなことの中で、また工夫が重なってくるというようなこともあって、また、その飲食関係同士の競争も始まる。スパイラルアップして行って、レベルアップしていくんじゃないかというようなこともあると思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

お互いに競い合いなり、そういう環境づくりが大事だろうとっております。特に、能生エリアのラーメンは、非常に皆さんに評判がいいのも、そういった関係にあるのかもしれませんが。そのように1店舗だけでというのは、なかなか難しいわけございまして、数多くある店舗で専門の皆様方がやっぱり中心にいていただかなくちゃだめなんです、そういう中で戦略的なものをみんなで協議をしながら、つくり上げていかななくてはいけないのではないかなと思っております。

それがなかなかないから、今、議員ご指摘のように、方向性が少しまとまってないんじゃないかなということに見えるんでないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

食に関しても小冊子みたいなんが結構あって、やっぱりみんな工夫してるんですよ。ところが1つにまとまっていて、例えば僕らがこれ見てくださいよと、これ見てもらえばというような決定版みたいなものがないというのが、今、現状だと思うんです。やはりそこに取り組みが必要。

それからブラック焼きそばやジオ丼みたいに、1つのテーマをつくってやっているわけですよ。残念なのは、これ1回に1食しか食べられないですよ。だからブラック焼きそばが、いろんなところに、いろんな味があるといったときに、じゃあどこがおいしいんですかって聞いて行ったら、それ1食で終わっちゃう、ほかも食べてみたいと思ってもできない。だとすれば、食べ歩きメニューみたいなものがあったもいいんじゃないかと。

例えば4分の1食ぐらいのもので、4店舗食べ歩けるとか、やはり自分たちが味わってるわけですよ。おいしいもんがいっぱいあったって、決められた量しか食べられないということに対するジレンマがあるのを観光客の立場で考えれば、じゃあこんな工夫があるんじゃないのというのが出てくると思うんです。やはりそういうことを話し合って、みんなで工夫していく場が必要だと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに2分の1のものはあるみたいなんです、今言われるように味わってみたいという形になってくると、なかなかそれが限られた時間の中では難しい部分でございますので、やはり何店舗も見て味わえる、そして楽しみが増していけるという事柄が大事になってくると思っております。

そして何といたしても、やっぱりストーリー性なり、そういった1つの連携というものをどこかに1つ見出していただいて、進めていくことが大事なんだろう。やはり各店舗はみんな、1つの縦割りのしっかりとした組織であります、どこかでつながってるということにならないと、やはりだめなんだろうと。それを要するに行政も中に入ったり、また、団体の皆様方も組織としてつくって、立ち上がっていかなくてはいけないだろうと。その辺をまた提供される皆様方と懇談をしながら、

つくり上げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ぜひ工夫をお願いします。

お江戸日本橋糸魚川食談会って銘打ったんですかね、食談会が行われました。これは糸魚川の食材を首都圏の飲食関係者に売り込む、ある意味つながりを創出する取り組みだと思ってるんですが、これちょっとびっくりしたんですけど、糸魚川市のホームページに載ってないんですよ。少なくとも私は見つけられなかった。ということは、見にいっても見つけられない人が、あったとしても、見つけられない人が多いと思うんですけど、これはどういう状況でしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

お答えいたします。

8月22日以前には、ホームページには載せておりましたけども、イベント開催以降は、その情報は落とさせていただいたということでございます。

なお、22日には25社、70名の方がお見えになりましたので、その方々の感想も含めながら、いま一度ホームページでPRする必要があるのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

後から話を聞いて興味を持ってね、じゃあ糸魚川市のホームページを見て、自分も何かそこにかかわっていかうかと思った人が、いや、開いてもどこにも出てない、なんだ、大した熱が入ってないのかというようなことになっちゃうと思う。

例えば僕の友人も行ってくれたと言いましたけど、やっぱりそこから飲食関係の仲間に声かけてという話もしてましたから、そうなってくるとやっぱり今は誰でも、まず、最初にホームページを見に行きますよね。ぜひそのところは、今言われたとおりに再アップして、そこからまた広がっていくような形をとってもらいたい。

食談会は糸魚川の食材の売り込みですよ。糸魚川の食材を売り込むのと、それから今度は糸魚川での食を売り込んでいくこととということをどう関連づけていくか。糸魚川のものを売ると、糸魚川に来てもらって食べてもらうというところで、糸魚川の食材を利用してくれる人たちに、今度は糸魚川の情報発信してくださいよと、こんなうまいもんあるんだからというようなやっぱり相互の取り組みというのが、今後、望まれていくと思うんですが、可能性としてありますよね。どう考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もその状況を見学いたしました。非常に好評でありました。そういう中で、ただ食材だけではなくて、加工、料理をしたものも提供させていただきました。このような食材は、地元ではこのような食品といいますか、料理としてつくって食べてますと。地元の食文化ですというような言い方もしながら提供させていただいて、非常にそれも関心を持ってもらいました。

そういうことがやはり東京で、食堂なり、レストランなり、居酒屋で広がるのが、やはり糸魚川にフィードバックしてくるんじゃないか。もしかしたら、じゃあ糸魚川へ行って食べてみようじゃないかという形になっていただければと、それを狙っていきたいということで、逆に先ほどのふるさと市民の会と同じように、まず、基地的なものをつくっていかなくちゃいけないだろう。

ただ不特定多数の人たちだけに、いろいろ今まではずっとやってまいりました。食品を販売したり商品を販売してきたんですが、そのままなかなか広がりも見えなかったものでございますので、今度はそういう形で、しっかりとした根を張っていくPRも必要じゃないかというような形で、今進めさせていただいて、これをもっと広げていきたい。商取引するのが、全てでないだろうと思っております。しかし、おいでいただいた方々が、非常に関心を持ってきていただいたんだろうということで、そういった人たちにまたアプローチをかけていきたいという考え方であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

糸魚川の食材を使った首都圏の飲食店に関する情報ですね、それは理解をしてもらえれば糸魚川市のホームページの中で、また情報発信をしていくと。向こうには糸魚川市を売り込んでもらうというようなことをして、その形がいいかどうかわかりませんが、もっといい形もあるかもしれませんから、研究して取り組んでいただきたいと思いますね。

食で人を呼んで、ジオパークを楽しんでもらう。また、ジオパークに引かれて来る人を食でもてなす。戦略プロジェクトでも食に関する情報発信の部分が、文面を読む限りはちょっと弱いような気がするんですね。やはりジオパークそのものに関する情報発信というところに終始をしているような気がします。ぜひ食の情報発信というのを絡めてもらって、もう少し糸魚川へ来たい心をくすぐる情報発信というか、情報の提供というところに着眼してもらいたいと思うんですが、着眼してないことはないんですけど、もうちょっとしっかりと打ち出してもらいたいと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

先ほど議員さんがおっしゃったとおり食の観光パンフ、そういったものも私、ぜひあったらいいなという思いは持っています。ただ、若干気になるのは、やはり行政としてそういうものをつくるときに、どうしても公平性、平等性というのは少し邪魔をする面も出てきますので、どういう形で、どういうところと協力していけばいいか検討する中で、ぜひ糸魚川に来て、ここへ来るとこういうものが食べれる、そういったもののパンフレットの的なものは、つくっていきなという思いは持っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

市でパンフレットつくってくださいよと言ってるわけじゃないんですよ。それはつくるのは、どこでもいいんですね、協力してやっていけばいいんですから。ただ、やはりこれがじゃあ公式のものですよって、一番今の全体がわかるものですよというのが出てくればいいし、そういうのがつくれるということは、ホームページ上にもどのような形で載せていけることになりますよね。外から見て、ああ、糸魚川って食でこんなに連携があって、行ったら楽しみだなというふうなことが感じ取れる情報発信の仕方ということが、非常に大事だなと思います。

食マップ1つにしても、やはり今までのものを総括してつくっていくということになるんでしょうけど、だけどこれも変化するでしょう。それぞれ飲食店が工夫していったら変わっていくわけですから、やはりそういうことを前提にした取り組みをしていかなきゃいけない。市がつくったんでは、なかなかそういう柔軟な対応をしにくいと思いますから、やはりそこも含めて検討していただきたいと思います。

それでは、次へいきます。

新幹線に着眼した場合に、まず、新幹線を使って糸魚川に来てもらう。これは交通手段として利便性が高まったということに、極端な言い方をすれば、それにすぎないんですね。ところが、これは大きな変化である、環境の変化であるというふうに捉えた取り組みが必要ですし、また一方で、新幹線があってもなくても糸魚川に来たいと思ってもらえる取り組みが必要である。新幹線があることによって、距離感が縮まって観光対象となりやすくなる。

新幹線が開通するということに対する地元の我々の意識と、市外や他県からの捉え方の違いに着眼した取り組み方というのが必要である。新幹線が、我々はとまるというのは非常に大きなことですけど、そのことがじゃあよそから見て、どういう意味があるのかというところに着眼した取り組みが必要だと思うんですね。これはどのように考えているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

新幹線が開業して何が変わるかというと、やはり一番大きなものは、時間短縮が一番大きな変化になると思います。それともう1つは、やはり首都圏から来るということを考えて、今まで乗り

継ぎが必要だったのが乗り継ぎがなくなると。それと、やはり新幹線開業という大きなイベントの中で糸魚川駅、そういったもののPR効果、そういったものも非常に大きいんじゃないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

新幹線が開通することによる変化そのものを聞いたわけではないんですが、要するに地元の新幹線が通るようになって、非常に利便性が高まってきたという意識の中で、これで来てもらわなきゃいけないということと、ほかから見たときに、やはり糸魚川に新幹線が通ることの意味というところのPRの仕方というのは、おのずとちょっと違ってくるんじゃないかなと思うんですよ。そこのところを言ってるんですが、そういう意識は持ってもらいたいということですね。

それから在来線利用者からは、マイレール意識を持ってもらって利用促進を図るといいますが、例えば糸魚川市内の大系線、北陸本線沿線市民が、在来線を利用するために必要な条件というものに何が考えられ、現状はそれに対してどうなっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

在来線を利用する方にとっては今よりも、できれば新幹線によって長距離の交通手段は新幹線が担うわけですけど、今度は少しコンパクトな会社になることによって、例えば今、富山方面へは20本走っとるもの、直江津へは14本しかない。そういうものをできるだけ、もう少しコンパクトになった形の中でダイヤをもう少し、例えば忙しいときのダイヤを詰めて、閑散なときは少しあけるとか、ある程度フリーな形、自由な形で計画できるという、そういうものを追求していく必要がありますし、当然、新幹線との乗り継ぎ等も工夫していく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

観光客を呼ぶというのは別にして、市内の人がたくさん利用してもらいたいといったときには2次交通ですよ。2次交通が充実してないと駅までの足、それから駅からの足という。その場合に、例えば大系線を考えたときに駅周辺の、駅までは自分の車で行くけど、そこから電車で行こうとしたときの駐車場の問題とか、果たして駐車場を用意して、そういう利用者がどれだけふえるかわからないんですけど、やはり地域と一体になって、そういうことを考えて取り組んでいく必要があるだろうというふうに思います。やはりそういう条件を把握して、対応していただきたいと思えますね。

大系線はジオ鉄として、外部からの利用者確保を図ろうとしていますが、具体的に戦略プロジェクトの内容では、ちょっと具体的には言いませんが、十分なものとちょっと感じられないんですよ

ね。この戦略プロジェクトの内容で、ジオ鉄としての活性化は十分だと思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今この鉄道を利用したジオパークの利用ということで、ここに大きな3つの柱のうちの1つとして書かせてもらっております。その中ではまだ正直、具体的に新幹線のダイヤに合わせて大系線をどのようなふうにご利用するか、それから今言った新幹線に対しての2次交通として、ジオパークをどのような形でめぐっていくか。それは鉄道もありますし、それからバスもあると思いますが、まだ個々の細かい詰めはしてないというところが、正直なところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ジオ鉄としての取り組みとしてどんなものが必要かというのは、やっぱりジオ鉄というか、鉄道マニアみたいな人たちの声を聞いてみることも必要だと思うんですね。計画段階では糸魚川市が情報発信して、糸魚川市と一体となって、そのテーマに取り組んでみませんかというような参加者を募るとかいうのも方法としてあると思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まずは新幹線は、やはり北アルプスの玄関口であり、また、海への玄関口であるわけでありまして。そういう中で、今のえちごトキめき鉄道の日本海ラインと、また、大系線についてはどのように演出していくか、どのようにアピールをしていくかというのは、やはり大きな今ご指摘の点だろうと思うわけございまして、大系線のほうは、今、少なくとも広域観光連携をとらせていただいている皆さんと一体となっていないと、ばらばらでもやはりおもしろくない、ちぐはぐになっていくんだろうと思うわけございまして、そのような演出の仕方。そして日本海側については、日本海側をどのように魅力づくりをしていくか、非常にこれ難しい部分で、もうそんなのがあれば、とっくの昔にJRが取り組んでいたでしょうし、我々も行ったわけでございますが、その辺も含めて、これから会社の皆さんと詰めなくてはいけないだろう。

魅力をつくらなかったらだめございまして、市民の足といってもやはり人口減少や高齢化社会の中においては、そんなにご利用というのは急激にふえないだろうと思うわけございまして、やはり観光客も来ていただく環境づくりは、どうしてもその中でつくっていかなくてはならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

新幹線の来訪者を確保するためには、停車本数もふやして利便性を高めていかなきゃいけない。そのためには今、市長が言いましたアルプスと海の両方の玄関口だという側面があって、長野県、富山県方面からの糸魚川駅利用者をふやす努力も必要である。停車本数をそれで確保していく。そのためには開通後の実態調査も必要であろうと。

例えば富山県から糸魚川駅を利用する人が多いとなると、富山県の並行在来線の会社の糸魚川までの乗り入れ本数をふやすということにもなっていて、利便性も高まってくるというような考え方をしていかなきゃいけないと思うんですね。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

当然、今、計画段階では現実にあったり、それから今のダイヤに即した本数を確保しておりますが、当然、会社ができ上がって新幹線が動いた中で、また当然、実態調査をして、それに応じたそれぞれとき鉄、それからあいの風富山とも、調整しながら動かしていかなければならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

駅を中心とした機能ですけど、糸魚川駅が持つべき機能としては、私の考えですよ、案内機能、それからジオパーク観光や食観光のスタートポイント、ゴールポイントとなり得るハード・ソフト両面の設定。それから買い物、土産物という観点での王国館へのアクセスというようなことがあります。案内機能というのは、南北両方でのことを言ってますが、今、具体的に検討されてる段階だと思んですけど、検討の状況はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

今、新幹線ができたときには新幹線駅舎の1階に、観光協会の事務所も含めて、そこで案内機能をつくりたいというふうに思ってます。

今現状、観光協会がいるヒスイ王国館、その案内機能も何らかの形では必要であるというふうに思っておりますけれども、ただ、具体的にどういう形で運営するかというところまでは、まだ至っておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

もう1点、自由通路の各改札口、JR、それから新幹線になりますけど、その正面にはマルチディスプレイ等4面マルチを配置しまして、それぞれ北側の待合室、それから今、新幹線の駅舎側に今考えておりますジオパークの情報発信コーナー等へディスプレイを配置して、そこへ情報がつながるような形を設けておりますし、そこへ流すものにしても市の情報を流したり、それから、また各いろんな商店の情報を流したりするような形で、今、計画しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

電子媒体を使って情報を発信していくっていうんですけど、更新しやすい仕組みをつくってもらいたいと思いますね。1回業者に頼んでまた作り直すと、うんと金がかかるんじゃないかと、担当者がもう簡単につくり直して、発信したいと思う情報が簡単に発信できるようにしてもらいたい。コストの面も考えて、両方に多くの人員が要するというのではない形にしてもらいたいと思います。

そして駅に降り立った人が、自然に自分が望むコースに導かれていくというような観光客の視点に立って、聞いたら、あっち行ってください、こっち行ってくださいと振り回されるようなことではないような有用の仕組みをつくってもらいたいと思います。

それから現在、橋上駅舎からヒスイ王国館への渡り廊下が設定されていますが、その整備がされた時点で利用者の動き、これも目線で考えなければならぬ。駅を利用する観光客の観点から見ると、王国館は2階に土産物売り場があったほうが絶対いいですよ。地元の間人にとってはちょっとした違いでも、駅利用者から見たら大きな違いですね。あれまたあそこから下へおりにいっていくと。駅利用者から見ると地下へおりにするような感覚になるわけですけど、この辺は検討されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

その点につきましては、今後、タウンセンターの取締役会が間もなく開かれますので、その席で検討したいということで考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

副市長は短い言葉で、わけわからんことを答えるのが得意なんだけど、結局、そのことについて検討するということなんですけど、今、下の土産物売り場、それからテナントを出している人たちは、大分やっぱり苦労してますよね。人の流れの中を拾いあげられなくて、ですからやはり王国館

側の考え方はあるでしょうが、やはり考え方をしっかり伝えて、それできちっと検討してもらいたいというふうに思いますが、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

今、ヒスイ王国館と駅との連絡関係につきましてようやくまとまって、これから実施に入るという段階であります。そういったことで、ヒスイ王国館の中のところまで、まだ検討してない段階でございますけども、今後、それについて検討させてもらいたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

中心市街地の活性化は30年来の課題としてきたところですから、今から何ができるかという非常に困難な問題だと思っています。根本的な問題を、しっかり捉えて考えるということは必要だと思うんですね、できるかできないかじゃなくてですよ。今の問題は何なのか、30年間取り組んでこれなかったことが何で、どういう課題があるのか、そういうことをしっかりと真正面から捉えて検討していく。できないことはできないけど、じゃあかわりになる、こういう補う方法はないのかというような理論展開が必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

以前からもいろいろ活性化策、また、いろんな構想を捉えてくる中において、実現できなかったものが結構数多くあるわけです。それもやはりもう一度、検証しなくちゃいけないだろうと思っております。限られた新幹線開業というその時間までの間に、そういったところもやはり検討しながら、できればそれに間に合うような対応をしていかなくちゃいけないだろうと。

駅前銀座商店街通りにつきましては、今、電線の地中化にあわせながらアーケードを取り組んでおるわけですので、そういったところは今の流れで進んでいかなくちゃいけないし、進んでいくと思っております。それに対しては行政も、支援をしていかなくちゃいけないと思っておるわけでありませう。

中心商店街につきましては、やはりいま一度、全体でしっかりと捉えて考えて、まとまらなければいけないと思っております。新幹線開業だけを見据えて、あまりにもまた見切り発車して、途中で頓挫するようなことがあってはならないだろうと思っております。しっかりとした、やはりまとまって対応できる構想づくりなり考えを進めていけるよう、行政もその中に加わらせていただきながら、まとめていければと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

続きはまたやります。ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

14時15分まで休憩いたします。

午後2時05分 休憩

午後2時15分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告に基づいて、第1回目の質問をさせていただきます。

1、ジオパークと観光の取り組みについて。

「世界ジオパーク認定と北陸新幹線東京 金沢間開業は糸魚川市に訪れたチャンス」と言われます。これに合わせ「糸魚川ジオパーク戦略プラン」を作成し、各施策により交流人口拡大の取り組みを行っているところでございますが、観光を中心にその成果や課題について伺います。

(1) ジオパークについて。

今年は日本及び世界ジオパーク再認定審査の年ですが、再認定審査で指摘された課題について。

新しくジオパーク認定に向けて取り組む地域の状況について。

今後の「ジオ鉄」推進に大糸線の小谷・白馬、北陸本線沿線の名立駅など、他自治体との連携を考えていますか。

(2) 観光について。

従来の発地型観光から着地型観光に重点を置くように観光の流れは変わってきてまいっております。

ア 糸魚川市の着地型観光の取組状況について。

イ 着地型観光には、地域からの企画力、情報発信、市民の連携が求められますが、その

対策について。

広域観光の取組状況について。

外国人旅行者の宿泊状況について。

2、北陸新幹線開業と並行在来線について伺います。

(1) 北陸新幹線開業にあたり、糸魚川駅の最大のセールスポイントとPR方法について。

(2) 北陸新幹線糸魚川駅の利用促進策について。

(3) 新幹線駅へのアクセス案内と二次交通の整備・充実について。

(4) 並行在来線について。

JR西日本から譲渡までに改修される施設の整備について。

車両は日本海ひすいラインについてはディーゼル車ということですが、JR北海道の事故を受け見直しの考えはどうでしょうか。

リゾート列車のデザインに関する考えについて。

富山県では運賃値上げ抑制、安全対策を図る「経営安定基金」を設置しますが、その考えはありますでしょうか。

経営計画の収支計算の損益で、運賃水準が現行の場合や新駅設置の場合の試算はどうでしょうか。

3、農業について伺います。

(1) 米仮渡金（または概算金）について。

12年産米の在庫量が増えたことなどにより、13年産米の仮渡金が大きく減額となりました。

当地域における生産者への影響と対策について伺います。

新潟一般のコシヒカリは、60kgあたり前年当初比1,800円減の13,700円となります。市内生産者の収入と販売価格に与える影響の認識について。

糸魚川産の12年産米の販売（または在庫）状況と本年産米の販売戦略について。

加工用米、米粉の需要と当地域の供給状況について。

(2) 園芸作物の振興について。

当地は稲作単体中心ですが、他地域との競合、食の多様化、TPPなど農業を取り巻く環境の変化は激しく、厳しさを増しております。

新潟県では「園芸ブランド確立推進運動」など園芸振興を図っているところですが、当地における園芸作物の取組状況と、市の考えを伺います。

以上、よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、現地審査時に幾つかのアドバイスをいただきましたが、回答の提出を求められた課題はありませんでした。

2つ目につきましては、本年8月末時点で、日本ジオパークを目指す地域は19地域あり、年々ふえている状況であります。

3つ目につきましては、北アルプス日本海広域観光連携会議や上越市、妙高市との3市連携などを通じて、ジオ鉄を推進してまいりたいと考えております。

2点目の1つ目につきましては、現在、翠の里・糸魚川ツーリズム推進協議会が主体となって取り組んでおります。また、交流観光の推進に一番重要な役割を担う観光協会の組織強化に取り組んでいるところであります。

2つ目につきましては、県や県観光協会などと連携したキャンペーン事業や、上越・糸魚川・妙高観光連携実行委員会、北アルプス日本海広域観光連携会議で取り組みを進めていきたいと考えております。

3つ目につきましては、観光協会の資料では23年度で76人、24年度で240人となっております。

2番目の1点目につきましては、北アルプスと日本海の玄関口ということが最大のセールスポイントであり、そのことをPRしてまいります。

2点目につきましては、ジオサイトへの交通確保とそのPRのほか、並行在来線や大系線への接続を含めた利便性の向上が図られるよう進めてまいります。

また、駅舎1階にはジオパークの情報発信コーナーのほか、ジオラマ鉄道模型やキハ52の現物を展示する予定であり、利用促進につながるものと考えております。

3点目につきましては、主要道路の交差点において道路管理者と協議をし、駅へのアクセス案内を整備してまいります。

また、糸魚川駅が交通結節点としての機能を発揮できるよう、在来線のダイヤ編成やバスの2次交通の整備充実に努めてまいります。

4点の1つ目につきましては、通常の修繕に加え施設の延命化等を実施いただくことになっております。

2つ目につきましては、経営基本計画のとおりディーゼル車両ということで、見直しの予定はありません。

3つ目につきましては、デザインは未定であります。

4つ目につきましては、新潟県では会社に十分な資本金を持たせることにより経営の安定性を確保することから、基金は考えておりません。

5つ目につきましては、運賃水準を1.3倍から現行水準に引き下げた場合は、30年間で約53億円の減収見込みであります。また、えちごトキめき鉄道では、新駅を設置した場合の試算について、今のところ行っておりません。

3番目の1点目の1つ目につきましては、一般コシヒカリの仮渡金の減額により、稲作農家の収入が減になるものと懸念をいたしております。

2つ目につきましては、JAひすいによりますと、12年産米は、ほぼ完売の状況だとお聞きいたしております。13年産米につきましても関係機関と団体が一体となって、高品質とブランド力の強化に取り組んでおります。

3つ目につきましては、加工用米は全国的な需要がありますので、市内では酒米、モチ米以外の

作付はされておりません。米粉は市内の製菓業者と小・中学校や保育園の給食で利用してるほか、JAひすいで販売いたしております。

2点目につきましては、園芸作物の生産や加工を組み合わせた複合化を目標に、主要品目の市場出荷や地元消費の拡大、安定生産に取り組んでおり、越の丸ナスなどブランド力のある園芸作物の生産販売を支援してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

では、再質問をお願いします。

きのう、おとといと2日間にわたりまして、日本民俗音楽会の第27回大会が、フォッサマグナミュージアムと根知地区等を中心に行われました。

世界ジオパークと文化遺産、歌、舞、踊り、これらをテーマに、大地と芸能などについて、民俗音楽、文化を研究する日本の第一人者が一堂に会して研究するこの大会、私も一端に触れさせていただきましたけれども、大変有意義なものだったと思います。

ご尽力された関係各位は大変ご苦労さまでございました。市のこの大会へのかかわり方、また、もし感想がありましたら、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今、議員がおっしゃられましたように、日本全国から約30名の方々が糸魚川に集まりました。第27回日本民俗音楽学会ということで、遠くは沖縄からも来られた方もおられます。この学会につきましては、市の学芸員がこの学会の中のメンバーの1人に入っておりまして、東京と、それと地方を交互に開催するというので、糸魚川市に来たということでもあります。

非常に内容の濃い、ジオパークというテーマも含めてシンポジウムも開かれましたので、糸魚川のその地域の独自性、特異性、そういうものと、今回、おててこ舞も含めて見に行かれましたので、そういう文化、芸能の成り立ち、そういうものも少し理解できたのかなというふうに思っております。

30名の方々以外に70名以上の一般の市民の方、市外からも来場されまして、講演会やシンポ

ジウムを聞いていただきました。こういう方々も含めて、地元へ帰られて糸魚川のジオパークの特異性、そういうものもPRできたのかなというように思ったり、大変有意義な時間だったというように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

文化振興課の担当としてわかりました。本当によかったなと思います。

世界ジオパークがテーマなんですけども、交流観光課としての感想はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

正直なところ、私、その講演会には出席しておりませんので、内容的な感想はできませんけれども、そういった形で、いろんな形の中でジオパークを取り上げていただく、また、糸魚川の情報発信ができるということは、本当に素晴らしいことだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

世界ジオパークで、この地域の活性化を図ろうと。今、その担当課が出席されなかったと。どなたかが出席されたのかどうかわかりませんが、ちょっと残念に思いますというように、私は今、印象を受けました。

私も大変レベルの高い内容だなというふうな感じがしましたがけれども、ジオパークと芸能、音楽、これはまた観光資源にも結びつくというふうな、可能性と期待を持ってたんじゃないかなと思っております。

ジオの上での歴史・文化、こういったものを改めて認識をいたしましたけれども、今回の世界再認定審査の審査員の方も、歴史・文化と地形のかかわりに関心があったというふう聞いております。このような会、今後も機会があれば進めていただきたいし、また、市民にも今回の内容などを広めていただきたいと思いますが、その考えはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

ジオパーク自体は地質だけでなく、大地に根差したそういった歴史や文化、そうしたものの1つの活動でありますので、機会があればそういったものにも取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

お願いします。

昨年、隠岐のジオパークが世界認定の審査を受けましたけども、見送りとなりましたけども、本年、再認定に向けてまた取り組んでおられるんですけども、審査がだんだん厳しくなっているのでしょうか。

姫川行政経済会議の席で市長は、この秋にはユネスコはジオパークの支援のあり方について、何だか変わってくるような話を、そんな印象を受けた話を聞いたんですけども、それはどういう意味の内容か、ジオパーク全体、あるいは糸魚川に何か影響がある内容なのか。また、審査内定は先ほど言いましたように難しくなってきたのかどうか、その辺のことを少しお話いただけたらと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

世界ジオパークの初期のころは、まだ世界にそんなに普及されてなかった。20地域でスタートしとるわけでごさいますて、やはり多く入っていただくことを目的にスタートした時代であった部分でごさいますて、最近では92地域、28カ国という形で、広がりがかなり出てきたわけでごさいますので、そういう形で非常に多くなっているわけでありまして、また、ユネスコの今度は正式なプログラムになりそうだという機運も高まってまいっておりますから、やはりある程度、一定のレベルにならなければだめだということで、これからなるという形で厳しくなっているのではなくて、やはり今までやってきたことのしっかりとした基準にもう一度照らしながら、評価をされとるとお聞きいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

日本ジオパークも先ほどの答弁で、これから19地域が認定を待っていると、あるいはそれに向かっているというお話かと思うんですけども、このままずっとふえていくと、認知度も上がってくるんじゃないかなという印象もあるわけですが、一方で、1つの県に2つ、3つというふうに複数が存在していくと、そのことに対する影響とか、あるいは何か変化というものが出てくるのかどうか。

例えば新潟県におきましては、佐渡市が認定に取り組んでおられると聞きますし、津南町も苗場地域を中心に取り組んでいくというふうな話も聞いておりますけども、その辺の動きとあわせて糸魚川のジオパークに与える影響等をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

それで今ほどのお答えですが、同じ県に幾つもあるではないかということでございますが、世界ジオパークは、県とか市域はあまり関係ございません。山陰海岸ジオパークみたいに、1府2県にまたがってるところがあるわけでございます。そういう形で、県内においても幾つあってもいいわけでありまして。ただ、県をまたいでおってもいいのはどういうことかと言うと、やはりテーマなり、ストーリーが、しっかりその中で一体となればいいわけでございます。

ですから例えば佐渡や、また糸魚川、そして今、津南も手を挙げているわけでございますが、じゃあ同じ新潟県だから1つのジオパークになれるかと言うと、追求してるテーマが違うわけでございますので、これは無理だと思っております。

そのように地質がベースなんですけど、それに関係する歴史・文化、そういったものをしっかり裏づけられておる。そしてまた市民が、それに対してどれだけ愛着と、そして誇りを持って活動してるかと。行政と非常にしっかりとしたコラボレーションになっているかというところが、一番の評価の基準でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先ほど伊藤議員の質問の中に、ジオパーク同士の友好交流とか、そういう話もございました。もうちょっと具体的に姉妹提携とか、そういった発展的なことやなんかもあるものでしょうか。また、そういったことも念頭に置いたことも、これから取り組んでいくのかどうか、意中のことがあったらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりジオパーク間の交流、そしてまたしっかりと提携を結ぶこともジオパークの活動の中に位置づけられております。そして今ほど伊藤議員のご質問にもお答えさせていただいたとおり、その交流の中身においても、やはりジオツーリズムをしっかりとしていかななくてはならないという形で、ツーリズムの中で観光というものを大きなやはりテーマに持って、旅行専門業者も中に加えられるような、そういった連携をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

ジオパーク、やはり認知度を高めていく、また、ジオパークブランドを高めていくということが大事じゃないかなと思うわけで、その辺の活動というものもポイントの1つになるんじゃないかと思しますので、しっかりとまた取り組んでいかれることをお願いいたします。

それで、ジオ鉄の推進でございます。小谷以南の姫川溪谷、あるいは北アルプス、これは大糸線の沿線の中で大変魅力のあるところだと思いますので、さらに提携していけば魅力が増す。また現在、花のジオ鉄化とか、あるいはフォトコンテスト、そういったもので鉄道を利用した幾つかのイベントを実施しておりますけれども、さらにいろんなバラエティに富んだ内容と、誘客の期待ができるかと思えます。

さらに北陸本線のほうでも、いろいろ難しいというお話もされましたけれども、名立駅に関しましては橋上駅舎としてのユニークな存在もあります。地下トンネルの筒石駅が隣ということもありますので、ジオ鉄の延長としてどうなんでしょうか。ジオサイトじゃないということもありますけれども、その辺の地域の理解を得る中でのジオ鉄として扱う、そのことは可能でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長(金子晴彦君)

まず1点、ジオ鉄とは鉄道を利用し、沿線に広がる地形・地質を楽しむ旅、ジオツアーをあらわした言葉でございます。それを高知大学と深田地質研究所等でネーミングをして、これを商標登録しているものでございます。

当市もジオパークの先進地で、ここに鉄道が走ってるわけですので、基本的にそこにあれば、ジオ鉄という言い方は志としては全然間違いじゃないんですけど、その言葉をただ単にジオ鉄で使うには注意が必要ということで、基本的には大糸線は、一昨年、昨年と研究してパンフレットをつかって、日本でいうと四国のほうで3本ほどジオ鉄という名前をつけてやっておりますが、糸魚川の大糸線が4番目ということでございます。

そういう中で、要するに根底にあるところは北陸本線も、そういう風光明媚なところがありますので、そういう趣旨に沿っては今後そう進めていく必要もあるし、進めていきたいと思っておりますが、ただ単にそこをすぐジオ鉄だという形では、なかなか今商標登録の関係もあって、その辺は調整していく必要があるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

ジオ鉄に関して商標登録があるということなんですけれども、かなりのこれ制約というものが、普通、商標登録があればあるわけなんですけれども、どうなんでしょうか。展開していくに当たって、ジオ鉄というあれをどんどんやっていくに当たって難しい面があるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオパークのジオサイトとして、鉄道を生かしながら進めていくことには何ら問題はございません。ただ、ジオ鉄といって名前を使っていけるのは、まだ全国に4つしかないということでございまして、正式名称でジオ鉄と言って、我々は今、大糸線を売り出していきたいということで進めさせていただいているわけでございます。

ジオパークともかなり強い連携があるわけでございまして、ご存じのように断層のあるところというのは谷になるわけでございますし、JRなり鉄道はアップダウンはあんまりあってはいけないわけでございますので、谷あいを走るわけで、そういった形でジオ鉄というのは生まれたという形であるわけでございまして、そういったところをしっかりと我々は生かしていきたいということで、手を挙げさせていただいて、取り組んできたわけでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりました。

観光について言わせていただきますけれども、着地型観光、成果ということについてはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

現在、着地型観光自体は市長答弁にもありましたとおり、糸魚川ツーリズム推進協議会が主体となって進めております。

成果という中では、やはりはとバスのツアーが500人ぐらいに昨年ふえたり、それから体験旅行という形で、いろんな学校から来てもらうようになったということで、一定の成果は出てきているものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

着地型観光、いろいろな切り口、あるいは企画等が出てくるかと思うんですけれども、市民からいろんな企画を持ち込まれる場合もあるんじゃないかと思えます。あるいは協力を求められる企画、そういったことに関して、基本的にはどのような対応をされていかれるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

いろんな方からの提言、アイデア、そういったものはアイデアとしていいものは、取り入れていきたいというふうに思っております。ただ、それがそのままツアー商品になるかという、やはりいろんなところの調整ができて初めて商品となってきますので、そういったものを聞く中で、よりよい商品をつくり上げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

いろいろ熱意をもって持ち込まれる。ただ、市民の中では、その企画に対して今言われたように各団体、あるいはいろんな関係機関との調整というのがなかなか苦手という場合があるかと思えますので、その辺を配慮して、なるべく力になってもらえたらと思います。

思いつくだけでも午前中の話にもありましたけれども、B級グルメのこととか、あるいは南蛮エビや、あるいはアンコウ、また、町家の文化保存、縄文カヌーで青森三内丸山遺跡へ行くとかいうプロジェクト、徳合地区のしだれ桜の風景街道とか、クラフト展とか、たくさん市民の中で取り組まれていることがあります。今言われたように全部が全部というわけにもいかないでしょうけども、いい観光資源につながるものと思われまますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

情報発信でございますけれども、これも先ほどいろいろと話がありました。

今、広報、チラシ、IT等あるわけですけれども、またさらにホームページ、フェイスブック、ツイッター、これらの利用状況はいかがでしょう。また、その利用状況について、どのように今考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

今現在ですけれども、フェイスブック等の利用者が368名、ツイッターのフォロワーとしては110人。それからホームページのジオパークのサイトの検索数として、いろんなホームページの区分があるわけですけれども、7月1カ月間で約3万2,600件のアクセス件があります。それからスマートフォンのアプリが、9月2日現在で約900件の利用となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今、挙げられた数字、これまで何回か私も聞いてきたんですけれども、担当課としては、これはどのように捉えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

実際、私も見ていてフェイスブック等の情報発信等は、それなりの効果が出てきてるなと思います。ツイッター等でもありますけれども、やはりアプリのダウンロード件数とか見ると、まだまだ不十分な点もありますし、ホームページについてもやはりうまく更新して見やすい、それからいい情報を掲載していくかということも課題かなと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

私もそのとおりかなと思います。もう少し、それに対する対策というようなものもお願いしたいかなと思います。

先ほどやはり伊藤議員のときも話がありましたけれども、これがまたホームページに載せたから情報発信しているとか、あるいは広報に載せたから情報発信してるっていうんじゃなくて、それをどれだけの人たちが、どのような人たちが受けてるかという確認、あるいは気持ちを常に持っているということが大事じゃないかなと思うんですけども、そういうことについて今どのように考えているか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

やはり担当者任せになっていると、よくないんじゃないかなと。気がついた人が常時更新をしたり、市民の方からもいろんな情報更新していただいておりますけれども、そういった情報更新できる輪、人とのつながり、そういったものをやはり広げていく必要があると思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

そうなんです。こういうメディアのいいところはスピード感と、それから双方向がやはり挙げられるかと思うんですよね。できれば、まだ今のところフェイスブックやツイッターは出っぱなしなわけなんですけれども、いつかそういったことで双方向のことも考えておられるのかどうか、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

そういう形で、できればいいなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

いいなと思っているなら、やっぱりスケジュール等いろいろと具体的なことも考えて進めていってもらいたいなと思います。

もう1つ、最近はやっている媒体としましては、ツールとしてはラインがあります。ラインは、この登録のスピードというものはフェイスブックやツイッターの倍以上のスピードで登録件数が進んでおります。最近では若い世代への情報への情報発信のツールとして、各団体や、政党や、行政などでも導入されているというふうに聞きますし、かなり有力なツールだというふうにあります。

フェイスブックやツイッターというのは、もう今やって当たり前というような感じがするんですけども、「ジオパーク」あるいは「ゆるキャラ」などでアカウントを取って、これらを活用して観光に結びつけている自治体もあると聞きますけども、糸魚川市はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

やはり情報ツールとしては、有効なものというふうに思っておりますけれども、どこまで、どういう形で情報提供すればいいのかっていうのは少し整理しないと、始めたのはいいけれども、やはりそちらのほうの情報更新がうまくいかない、そういった課題もあるんでないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

こういうものはスピードがある程度、勝負なところもありますので、情報の整理とか、あるいは見守るとか、そういう時間はなるべく短くして、やるならやる、できないならできないというふうな早目の検討の取り上げというものが必要かと思えます。

ちなみに京都府では、ゆるキャラやなんかの「まゆまる」ですか、観光誘客に使っておりますし、三浦市は桜の開花だとかイベントの情報、さらに海水浴場のアカウント、そういったものを開設しているそうです。他の自治体の中には、防災にも役立てているというふうにも聞いていますので、検討してみる価値があるんじゃないかなと思います。よろしくお願いします。

広域観光の取り組みでございますけれども、上越市を含む5市による広域連携「越五の国」、先日、特別委員会でお邪魔しましたけれども、上越妙高駅のほうへ。そのときいろいろとお話を伺い

ましたが、シンボルマークはもう作成されておりましたし、交流サイトも立ち上げて企画を持ち寄っているというふうに進んでいる話を聞きます。

北アルプス日本海広域観光連携会議も発足いたしましたけれども、シンボルマーク、あるいはサイト、企画、それらはどのようにされていくのか、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

北アルプス日本海広域観光連携、8月5日に総会を開いて設立しております。現在、具体的な作業については専門委員会を設置して検討していくという形にしておりまして、9月上旬には、その専門委員会を立ち上げて、かなりハイペースで協議のほうを進めていきたいと思っておりますし、そういう中でロゴマーク、それからポスター、それとホームページの立ち上げも、今年度中にはしていきたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしく申し上げます。

やはり新幹線の開業も1年7カ月後に迫っておりますし、いろいろと早い取り組みが必要になってくるかと思っております。

外国人の旅行者の宿泊状況でございます。かなりふえてきているというふうに思うんですけども、今後、交流人口の拡大の中で外国人の受け入れというものは、どのように位置づけておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

先ほど市長のほうで答弁いたしました数字、観光協会の糸魚川支部の資料でありまして、能生、青海についてはちょっと資料がありませんので、先ほど説明した数字よりは市全体として見れば、まだ多い数字になっているのかなと思っております。

ただ、その糸魚川支部の資料でも、22年度が293人ということで、24年度が240人という。それを考えますと、やはり震災の影響で23年度は非常に落ち込んでおります。そういう中では、24年度が持ち直してきたということで、これから徐々にではありますけれども、いわゆる外国人の観光旅行者もふえていくものと思っております。

ただ、やはり当市の受け入れ体制として言葉の壁、それから宿泊機関の対応、そういったところでやはり大きな課題もあると思っております。

そういう中で当面の取り組みとしては、この秋に香港から子どもたちが約40名、2泊で当市を訪れて、当市の生徒と交流する予定でありますし、ウイ・ラブ・ジャパン・ツアーということで、3名のスイス人の呼びかけによりまして、東西2ルートから糸魚川市をゴールとする企画も予定されております。

また、ことしの事業ということで、国交省のほうで外国人受け入れ環境整備サポーター事業ということで、外国人の体験ツアーを実施する中でいろんな課題、そういったものをお聞きするような、そういった事業も予定をしておりますけれども、当面は、やはり受け入れ体制をしっかりと整備する中で、拡大に努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ということは外国人の受け入れに前向きに、かなり交流人口の拡大の中にも位置づけていきたいというふうに受け取ってよろしいわけですね。

今、課題が言葉、あるいは宿、これらの課題について取り組んでいくと。やはりこの辺のタイムスケジュールとか、どうやって予算づけしたりとか、あるいは人材の育成をどうするとか、そういった具体的なことについては、どこで、どのようにされていくのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

ことし外国人観光客の受け入れ研修という形で、7月までに4回だったかな、そういう研修も実施しておりますし、過去には外国人の受け入れマニュアルというようなものをつくって、研修に努めているところですが、やはり個々の宿泊事業者、そういった方の取り組み、そういったものにも力を入れていく必要があるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先ほども話に出ました姫川行政経済会議で、白馬の議員さんに伺いました。白馬村を訪れる外国人の旅行者はどれだけでしょうかと、冬のスキー客を中心に年間5万人ほどおられるそうです。そのうちの2万人ぐらいが、オーストラリアからだそうです。彼らは休日や旅行の期間というものは非常に長いということで、白馬で滞在する期間中に糸魚川に足を伸ばして1泊、そういうのも考えられるんじゃないかと、そういう話もされておりました。

長期滞在する外国人が希望するものとしては、2次交通の足の確保だそうです。それで白馬村では長野市へのシャトルバスを出して、新幹線からの利便性を高めていると。そのように外国人観光客のニーズに応えることによって、大きく増加に結びつけているというふうに伺いました。最近

スキー客ばかりでなく、夏場のリゾートとしてもふえてきていると。

当市としては、外国人観光客に対するニーズの把握というものは、どのようにされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

現在、当市に主に来ておられる外国人というのは、アジア圏、それとスイス、その2つが主なところということと、やはりまだ240名ぐらいという少数でありまして、市として具体的にニーズの把握というところまでは、まだ至っておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

白馬も最初は少なかったということで、これまでに伸ばしてきたというふうに聞いております。白馬のオーストラリア、また、先ほど保坂議員の話にもありました歌登のタイのように、1国に絞った、あるいは的を絞ったような誘客というのも効果的なんじゃないかなど。

今ほどのお話ですとスイス、あるいは香港というのに、すごく縁があるような印象を受けるわけなんですけれども、そういうスイスや香港などのように縁のあるところへ、その辺の的を絞った誘客というのを、これから展開というのは考えられませんかでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

やはり今、当市は香港ジオパークとの連携関係を持っておりますので、そういったところからスタートする中で徐々に受け入れ体制を整備して、進めていければというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

観光庁の調査によると外国人が、先ほど言いましたように長期滞在もありますけれども、経済効果が非常に大きいというふうに聞いております。そういうこともありますので、また、これから積極的な誘致政策というものを進めていただけたらなと思います。

では、大きな2番目の北陸新幹線の開業と並行在来線について伺いたいと思います。

糸魚川の駅を8月19日に現地視察させてもらいましたが、説明では、北陸新幹線の駅舎の中でも高さが一番あるそうです。また、ホームからの海の眺め、山の眺め、これは恐らく一番眺

めのいい新幹線駅じゃないかという説明もされました。

新幹線の改札口にはヒスイの太い柱、日本海に一番近い新幹線駅、鉄道ジオラマ、レンガ車庫の三連アーチ、キハ52型の車両の展示、素材は非常にたくさんあって、いいものだと思うんですけども、まず、市長も先ほど少し話されましたけれども、共通性といいましょうか、方向性といいましょうか、共通した方向性といいましょうか、統一性というものをどのようにされていくか。

やはり大事なものは、ストーリーということが大事じゃないかなと思うんですけども、このストーリーをどのように、これらのいい素材というものを結びつけてもっていくか、それまたどのようにPRしていくかというのが大事かと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりこの糸魚川は、大糸線というのは切っても切り離せない関係にあったわけでございますし、そこに走っていたキハ52というのは鉄道ファンからは、非常に高いものがあったわけでございますので、それを中心にしながら。そして、このジオパークという今事業をやっとるわけでございますので、その特徴のあるジオラマ。そして新幹線駅は鉄道でございますので、それをしっかりとした中心に置かなくちゃいけないだろうということで、鉄道ファンという形の中で、鉄道模型を中心にしてやるわけでございますし、また、子どもさんに来ていただくことも大切ということで、プラレールをそこで展開をしながらやっていくわけございまして、「鉄道」ということをテーマにさせていただいて、それをベースにしながら関連あるものをそこに集めて、おいでいただいて、楽しんでいただくという考え方でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

テーマは鉄道ということで、今お話されたようなことを、市民、あるいは観光客、訪れた方にも、わかるような形で示されたらなというふうに期待をしたいと思います。

駅の南北の出入り口ですけども、アルプス口と日本海口、もうちょっと糸魚川らしさというものも欲しいなという気もしないではないんですけども、先ほども話をした上越妙高駅でありますけれども、駅の周辺にもコンセプトというものがあまして、上越妙高駅は、人々の記憶に残る駅ということで「百年まちづくり」、それによって東口のコンセプトは「都市との対峙」、公共空間のシンボルは、もてなしと交流のエントランス、西口のコンセプトは「大自然との対峙」、公共空間のシンボルは光のテラス、それぞれにコンセプトやシンボルというものを持って整備されています。

やはりこういうわかりやすいコンセプトというものを示して、発信してもらえたらなと思うわけでありまして、その辺の考えと、駅の各部の名称ですけども、出入り口のアルプス、日本海、そのほかに自由通路というものは、名称というのは考えておられるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

北口・南口には、それぞれ今おっしゃられた日本海口・アルプス口という形で、これまでも話を進めてまいりました。自由通路については今のところ、ここを自由通路ということで、もうずっと通ってきた、どなたもご存じじゃないかなと思ってるので、今のところ、特にここに愛称というものは、今の段階では考えておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今のところは考えていないけども、場合によってはあるのかなという期待をするんですけども、マイレール意識、あるいは利用促進策の一環の中で、その辺もやる、やらないはともかく、考えてもいいんじゃないかなと。

あわせてレンガ車庫ですけども、レンガ車庫の三連アーチも、やはりレンガ車庫の三連アーチなんでしょうか。また、このレンガ車庫というのは、いつ整備されますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、南口側では、いろんな整備を行っておりますが、三連アーチのほうは26年度の整備予定でございます。

これにつきましても特に、何が何でも愛称をつけるということではなくて、これはレンガ車庫の三連アーチって、これもこれで非常にわかると思いますし、全体的にそういうものは、例えば使っていく、利用していただく中で、またそういうものが自然と沸き上がって、またそれに向けて進めていくのがいいのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりました。

駅周辺の整備の1つで、この夏、期間限定で紅梅文庫が、駅前銀座商店街のあれで実験店舗が開かれました。きのう終わったばかりなんですけれども、この試みというのは私は大変うれしく、また、敬意を払って評価しているところなんですけれども、この試みを行うに至った経緯というところは、どんなことからだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

駅前銀座商店街の皆さんが、活性化計画を今検討しておる中で、空き店舗の活用で何かできないかというふうなことから、紅梅文庫の活用を考えたものでございまして、8月いっぱい開催をしていただきましたけども、380名ほどの利用があったということをお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

この試みでは、常設化も念頭に置いているというふうにも聞いているんですけども、常設化に対してどのように考えておられるか。ぜひ私としては糸魚川らしい、いい取り組みであるし、また、駅の近く、あるいは駅の中に、このような本屋さんとか図書館とか、それに似たような機能が備わってあればいいなと思っているものでございまして、ぜひ将来的に常設化というものも念頭に置いて、前向きに取り組んでもらえたらというふうに思いながら聞いてるわけなんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

紅梅文庫については、そのように今、試験的な対応をいただいております。その辺を分析して、判断しなくちゃいけないと思ってる次第でございますが、私といたしましては、やはり本のもたらす効果というのは、非常に大きいものと捉えておるわけでございまして、それはどういう形でやればいいのか、その紅梅文庫も含めて、これから検討していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひお願いしたいと思います。

次に、新幹線駅へのアクセスなんですけれども、駐車場が122台分ということで、南側に集中整備されます。新幹線口としての乗り場は、南側へ誘導する形の案内というようなものをされるかと思うんですけども、北側に行かれない人へは、どのように案内していく。地元の人たちは、わかりやすいかと思うんですけども、その辺の混乱がないような案内の仕方というものは、必要ではないかなと思うんです。その辺のことへの配慮というのはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

南口には新たに整備した、今言われたような新駐車場ができますし、当然、北口にもヒスイ王国

館の中に百七十数台の駐車場がありますので、そこへも当然、同じような形で利用していただくと
思います。案内については、今後、そこへどういうふうなサインとか、そういうものをまとめて考
えた中で、それから当然、今度は利用のパンフレット等もつくっていかねばなりませんので、
その辺を考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

確かにヒスイ王国館の駐車場もあります。それもわかっているんですけども、よくイベントな
んかがあると、塞がっていたりもしますね。122台では不足ではないかという心配の声も聞かれ
るんですけども、万一の緊急・予備的な駐車スペースの確保というものを考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、そのほかに駅の北口で、JR西が長距離利用のサービスとして、駅の駐車場というような形
で二十数台ありますし、緊急避難としては、これはもう場所がなければ簡単にはいきませんが、今
いろんなイベントをやるとき、例えば北口では銀行さんなり、また、日常は使っていますが、休日
使わないような駐車場をお借りして、イベントを開いた実績もありますので、いろんなものを工夫
して、また、周辺の空き地の利用等も見えていながら計画を考えていきたいと。

南側については金沢開業ということの中で、今、様子を見るために、当初3階からワンフロアの
駐車場ということで、今122台分を確保しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひ混乱がないようお願いしたいと思います。

2次交通ですけども、これも先ほど話が出ましたんであれですが、8月6日に四行会の皆さんが、
JTB総合研究所の倉石氏を招いて講演会を行いましたけども、新幹線利用客の2次交通の多いの
は、タクシー、レンタカー、路線バスの順だそうです。先日の姫川流域での広域観光推進の中で、
レンタカーを活用した旅行商品の開発というものを挙げて、JRに協力を求めている話もありまし
た。

また、魚津市での特別委員会正副委員長会議がありましたけれども、その資料の中でも新川地域
の推進協議会では、北陸新幹線、黒部から宇奈月温泉駅の利用促進にかかわるバス運行等の2次交
通手段の整備に対する支援を県に出しています。先ほどのやりとりでは、まだこういう具体的な動
きはしてないというんですけども、見通しとしてはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

現在の状況とすれば、駅からの2次交通として街めぐりバスがあったり、駅から観タクンがあったり、それからレンタカーということで、車での観光コース、そういったのも設定はしておりますので、さらに今後は、やはり北アルプス日本海の広域観光連携、そういった連携の中で、新幹線系魚川駅からどういった観光ルートがつかれるのか、そういったものも連携会議の中で検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

やはりこういう2次交通というもの、例えば北陸新幹線の駅が開業するのが、あと1年7カ月と。もう時も迫ってきておりますので、なるべく早く示して、その辺も情報の発信の中に加えていったほうが、いいんじゃないかなと思う次第でありますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

次に、並行在来線でございます。

先日、やはり特別委員会の正副委員長でなんですけども、魚津市で富山市以东の3市2町と糸魚川市も加わっての会議がございました。沿線自治体の頭を悩ませているというのは、やはり安全性とか利便性、それはもちろんなんですけども、それらを図りたいんですけれども、重くのしかかってくるのは財政負担ということでありました。

JRからの譲渡資産とか国からの支援というものも示されて、えちごトキめき鉄道の経営基本計画、これらがつくられたわけですけれども、運賃の値上げ、優等列車の廃止、泊での折り返しなど、利便性や運営後の財政負担など、4市2町共通の課題というものが多くありまして、これからも共同して国や県、JRに支援の要望を上げようと話をしているところなんですけれども。

31日の日報の記事に、泉田知事らが並行在来線の利便性向上を求めて、自民党本部、国土交通省、JRに要望したということが掲載されておりました。市長も同席されたというふうにありますけれども、信越本線の活用についての要望というものを紹介されておりましたけれども、北陸本線からの優等列車などの利便性についてはどうだったんでしょうか。知事の考えとか、あるいはそのとき同席された感触というものも、あわせてお聞かせいただけたらと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今の知事の要望ですね、新幹線対策協議会、これは新潟県の中で行った要望で、これは8月30日という日程の中でしたので、当然、ここの一般質問の会議の席なので、うちのほうはいろいろ打診がありましたが、この日程は参加できないということで見送らせていただいておりますので、市長同席ということはございません。

議長（樋口英一君）

暫時休憩します。

午後3時16分 休憩

午後3時20分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

新潟日報の先ほどのおっしゃられました記事でございますけれども、新潟日報のほうには30日の日に、米田 徹糸魚川市長も出席というような形で記事に載っております。新潟日報のほうから先ほど市長に、直接おわびを申し上げたいということで、日報のデスクのほうから電話があったそうでございます。

当然、先ほど金子課長が申しあげましたように、30日の日は議会の一般質問で、こちらに市長はおりましたので、当然に出席できないという状況でございました。日報のほうからはそのような謝りの電話が、企画財政課の職員のところから先ほどあったということでございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

今後の対応については、状況をいま一度確認の上、必要な対応をしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

わかりました。

今の部長のお話で、今後の対応の中にも含まれるかと思うんですけども、非常に当市としても重要な課題であると思っておりますので、この辺のまた経過とか、あるいはその内容の中について当市にかかわる部分において、検討するところや説明するところがあれば、またお願いしたいなと思う次第であります。よろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当然、我々もその中に加わっておるわけでございますし、その課題については、当然、我々の考え方なり、また我々の要望というのを、ぜひその中で主張させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしくをお願いします。

譲受前のJRからの施設の整備の中で、3月にコンクリートのモルタル片が落下して問題になりました。経年劣化が原因ということでありまして、点検され、対応されていますけれども、長大トンネルをはじめ非常に多くのトンネルがあるわけなんですけれども、その辺、その後の対応、これからの対策ということについては、どうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

通常の修繕については、この引き渡し前まで、それはJRが責任を持って管理して引き渡す。それから、それ以外の改良等を含むものであっても、引き渡しの時点で必要なものは、JRをお願いしてやっていただくということで、特に当市のほうでも会社のほうへ何回も、安全については特に厳しくという形をお願いしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしくをお願いします。

もう1点、トンネルの中で携帯電話の利用ですね、できるところと、できないところとあるのかどうかあれなんですけれども、この日本海ひすいラインの中での携帯電話の利用が、できるところ、できないところの把握というのはされてますか。また、できないところは譲受前に、整備してもらうように話はできないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

以前にも一度、携帯電話のお話がありました。そこでJR、それからとき鉄を通じてお話をし

てみましたが、なかなか携帯電話を通話できるような対策は、今、JRでも考えておりませんし、また、とき鉄でもできるような形ではないと。それとは違う意味で、トンネルの安全対策についてはいろんなものを、会社の経営計画にも載っておりますが、そういう形で対応していきたいということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

その違った形での対応の中で携帯電話にかわる通信手段、携帯電話そのものはマナー的なものもあったりもして、また問題面もあるんですけども、万一の場合の緊急時の連絡手段、その辺の対策というものは、何か具体的な考えがありましたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

現在でも頸城トンネルには、ちょっとキロ数は忘れましたが、電話がトンネルの中についておりますし、さらにトンネル区間での安全対策ということで、2キロ以上の長大トンネルには、トラブルが発生し、列車が5分以上停止した場合に、運行管理所へ自動的に警報を表示するシステム、それから運行管理所から当該トンネルの照明を点灯させるように施設を改修して、500メートル以上のトンネル内に避難誘導設備、それからトンネル出口や避難口の方向と距離を明示する、そういうようなものを設置するというふうに計画しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

そのことについては、経営計画の中にも示されていますのでわかりますけども、できれば譲受される前に実証実験等も含めて、確認のほうをさせていただきたいなと思います。

リゾート列車のデザインですが、今まだ未定ということでもあります。

鉄道ファンというのは非常に多くて、その中にもまたリゾート列車を楽しみに、それに乗ることが目的で行かれる、そういう方がたくさんおられるそうです。どうせつくられるなら、やっぱり乗ることそのものが、わくわく、ドキドキするようなデザインというものがあってもいいんじゃないかなと。パソコンや携帯なんかの壁紙とか待ち受け画面になっていつも持ち歩くとか、そういうデザインとか、あるいは車内の機能についても、そういうデザインというものを取り入れてもらいたいなという気持ちがあるんですけども、経費のことはよくわかりませんが、JR九州は著名なデザイナーが担当して、非常に成果を上げていて、経費以上のプラス面があるというふうに聞いております。

そのJR九州ですけども、10月15日に運行開始するクルーズトレイン、これはもう1年前からの予約が、7倍以上というように高いものがあるそうです。そういう夢のあるようなリゾート列

車のデザインというものを考えてもらうように、お願いできないものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今とき鉄と、それから新潟県では、既にJRで運行中の最新のリゾート列車等を参考にして検討しているということでございますので、経費との絡みもありますが、せっかくならば、夢のあるような形にさせていただきたいと思っておりますし、そのように要望していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

非常に期待させていただきたいと思えます。

運賃水準でございますけれども、富山のほうでは1.2倍以下、こちらのほうでは1.3倍、どうしても相互乗り入れを考えた場合に、運賃格差がどうも生じてしまうわけでございますけれども、地元住民の利用者と考えて相互乗り入れ、この水準というものを、なるべく格差のないようにしてもらいたいと思うんですけども、同じになりませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えさせていただきます。

1.3倍は、我々はやはりどうしても理解できないし、もっと会社に頑張ってもらいたい、今、要望させていただいております。それに向けて、今検討いただいとるわけございまして、我々といたしましても、やはり今の1.3では理解できない話をさせていただいておりますので、ご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしく申し上げます。

その運賃ですけども、1つの例として、2003年に第三セクターで再出発した福井のえちぜん鉄道、これは運賃を逆に15%値下げして乗客をふやしているというふうに聞いております。

2010年の利用客予想が2,423人に対して実績が3,152人、2011年には、さらに3,234人というふうに伸び出しております。こういった例もあるわけですので、ぜひその辺も考慮して、負担のないような形で運行に向かっていくことをお願いして、私の一般質問を終わります。

+

どうもありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、田中議員の質問を終わります。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後 3 時 3 0 分 延会

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+